

平成27年度版
京都市の学校評価システム

平成26年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成27年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	17

II 学校での取組事例

1 京都市立九条弘道小学校	22
2 京都市立櫛原小学校	37
3 京都市立凌風小中学校	52

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校評価を導入するにあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価をめぐる法令の改正が行われ、「学校自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、全教職員が学校目標とその具現化に向けた実践を行うと同時に、評価項目・指標・評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「みんなのもの」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、教職員や学校関係者は学校を単なる評価対象として見るのではなく、よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価することを基本としている。特に、学校関係者評価の中で「学校の自己評価結果に対する評価」を受けることに加え、「学校改善に向けた支援策」についても明記することとしている。

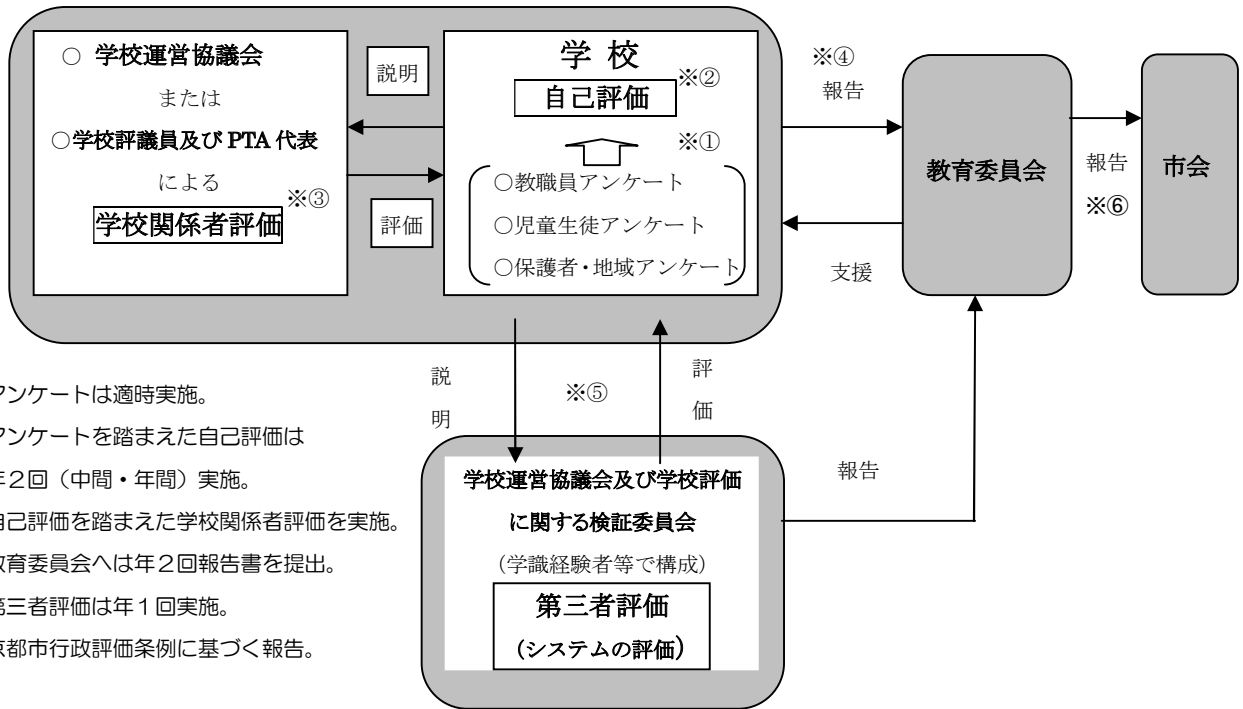
(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んできた。

(4) 学校の魅力を発見し、発信する

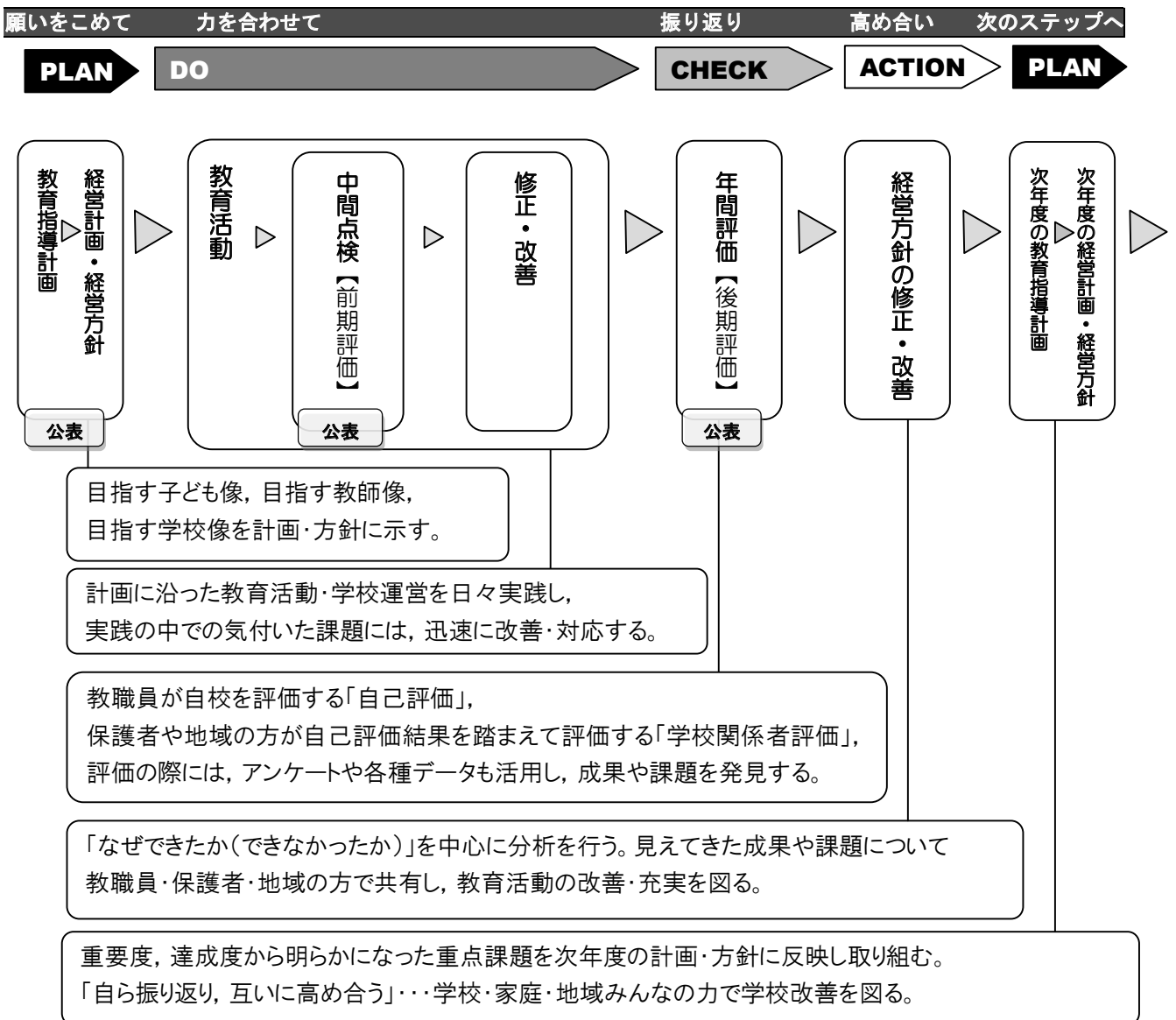
学校評価を実施することで学校の課題を把握し、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」を活用し自校の魅力や課題が一目で分かる魅力・課題発見型（ニーズ調査型）のアンケート手法を導入している。これらの結果の概要は全ての学校のホームページで公開するとともに「学校だより」等でも保護者や地域の方に積極的に情報を発信している。

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》



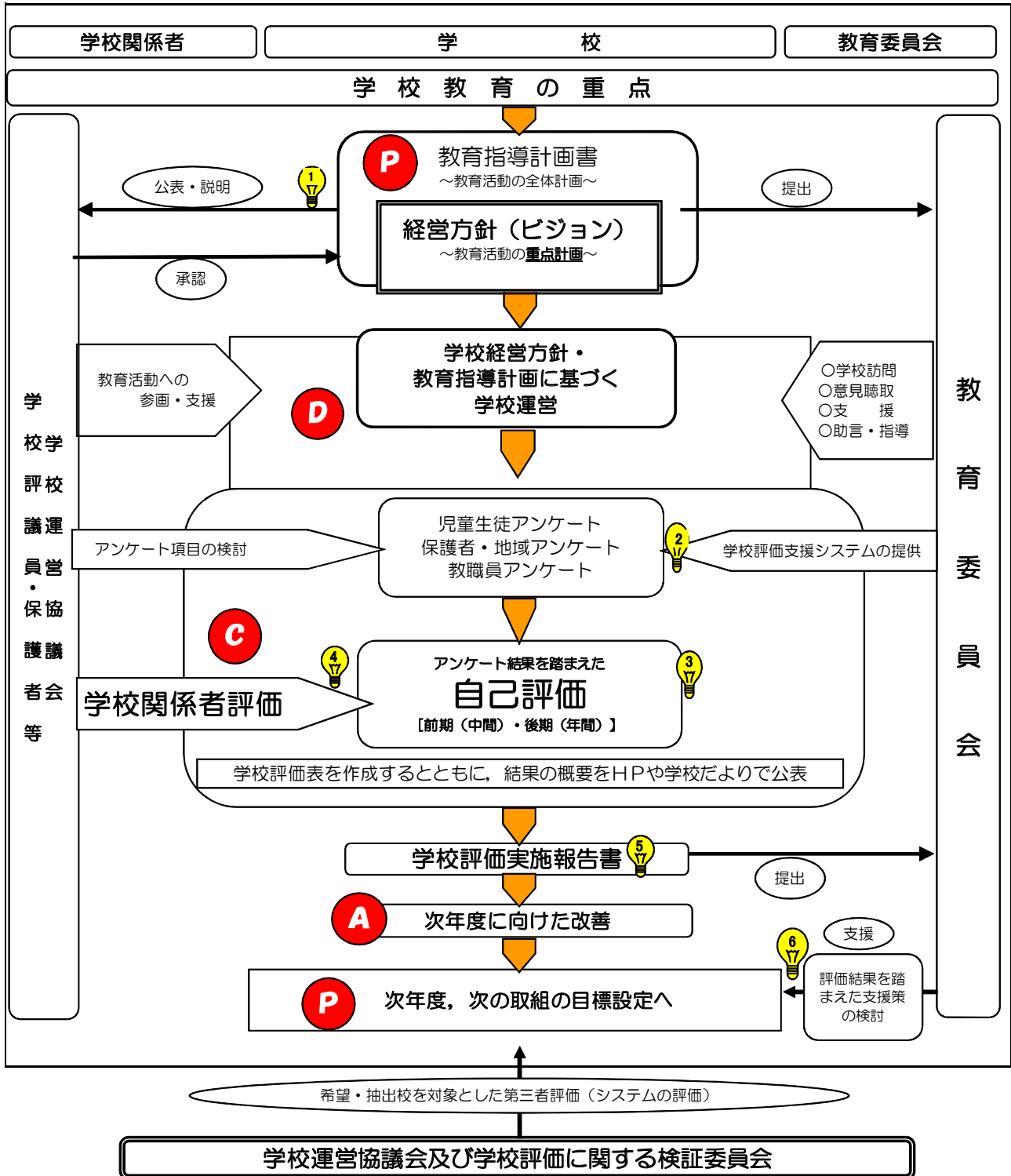
- ※①アンケートは適時実施。
- ※②アンケートを踏まえた自己評価は年2回(中間・年間)実施。
- ※③自己評価を踏まえた学校関係者評価を実施。
- ※④教育委員会へは年2回報告書を提出。
- ※⑤第三者評価は年1回実施。
- ※⑥京都市行政評価条例に基づく報告。

《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見につながるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成26年度においては、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の4点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施。
（計8校を訪問）
- (2) 各校においてアンケート作成・集計・分析を行うための「学校評価支援システム」について、本市独自の「新・学校評価支援システム」を導入。（平成26年6月末から運用を開始）
- (3) 文部科学省の委託を受け、義務教育9年間の子どもたちの学びと育ちを支援する体制を整え、かつ、学校・家庭・地域が協働性を高め自律的に教育活動を充実させていくことができる学校評価や学校運営協議会の在り方について研究。
- (4) 各校で作成する「学校評価実施報告書」の様式について、各校の重点目標と評価項目、具体的な取組とその結果、分析、改善策の関係をわかりやすいものとし、目標達成や課題解決のための評価活動の流れを理解しやすい形に改善。（平成26年度報告から変更後の様式を使用）

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

全ての学校で、保護者、児童・生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において学校評価を特集した学校だよりやホームページ等で公表した。

(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から意見だけではなく、子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、総合的な学習の時間に関わる地域ボランティアの充実や、家庭での読書に関する意識を高めるための親子読書の実施、地域行事の中で子どもが活躍する場面を増やす等、様々な面での支援の充実・改善につながっている。

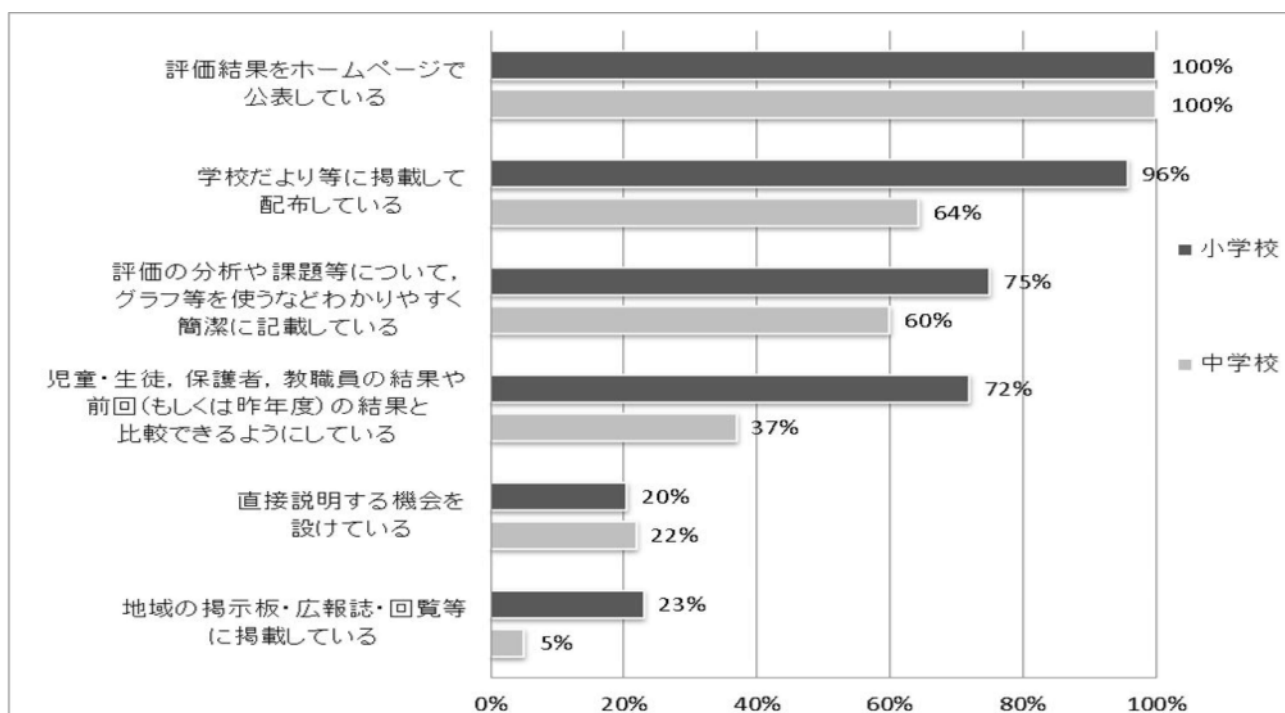
(3) 学校評価の実施にあたっての工夫、課題について

全ての学校に対し、「評価の公表の際に行った工夫」や「実施にあたっての課題」、「学校評価の効果」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

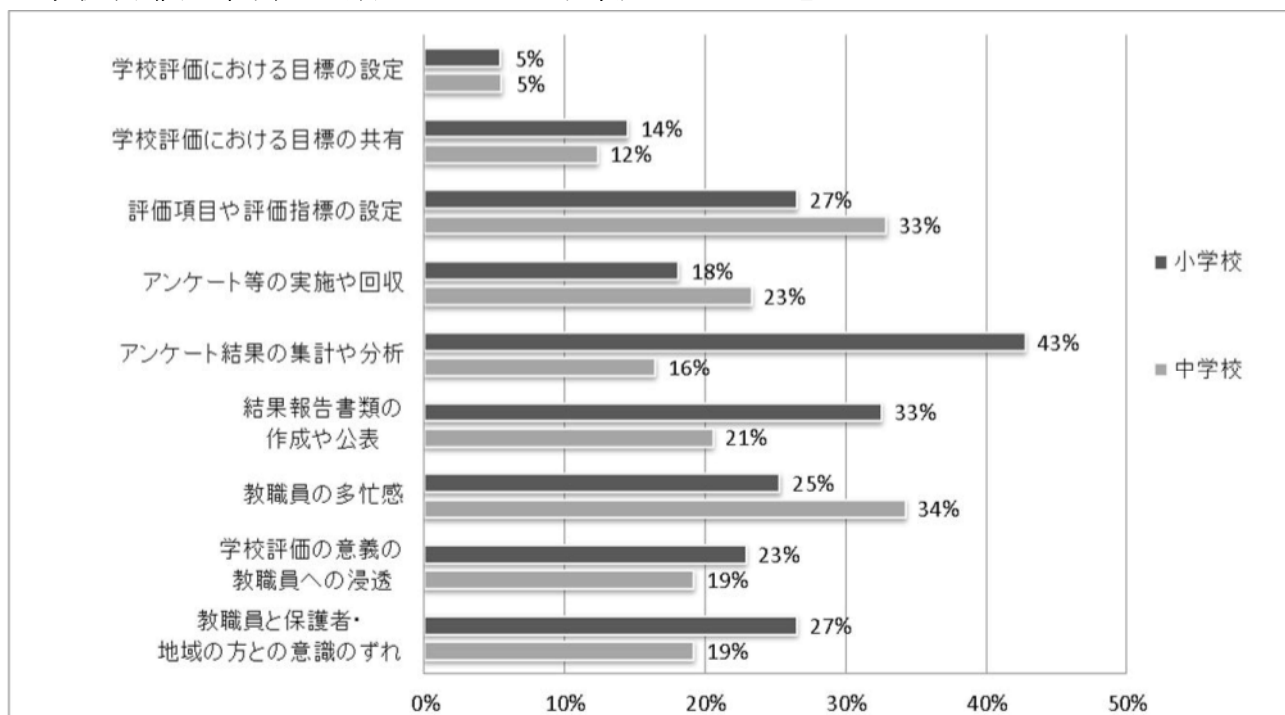
評価結果の公表については、全校で学校評価の結果をホームページに掲載しているが、その中でも小学校の96%が学校だより等へ掲載し、また、直接説明する機会を設けたり、地域の掲示板に掲載したりするなど、それぞれの学校で積極的な公表を行っている。また、多くの学校では、評価結果の分析や課題等についての説明を記載したり、グラフを使って結果を示したりする方法を用いて、分かりやすい公表に努めている。

一方、学校評価の課題としては、アンケートの実施や回収、集計、分析等の作業が煩雑となる傾向にあり、教職員の事務負担の軽減に向け作業の効率化を図ることが必要であることから、平成26年6月から、新・学校評価支援システムの導入を行い、平成27年6月には、学校からの希望により、アンケート作成や集計をより効率的に、結果分析をより多面的に実施できるようにする新たな機能を追加したところである。

評価結果の公表方法や公表内容についての工夫



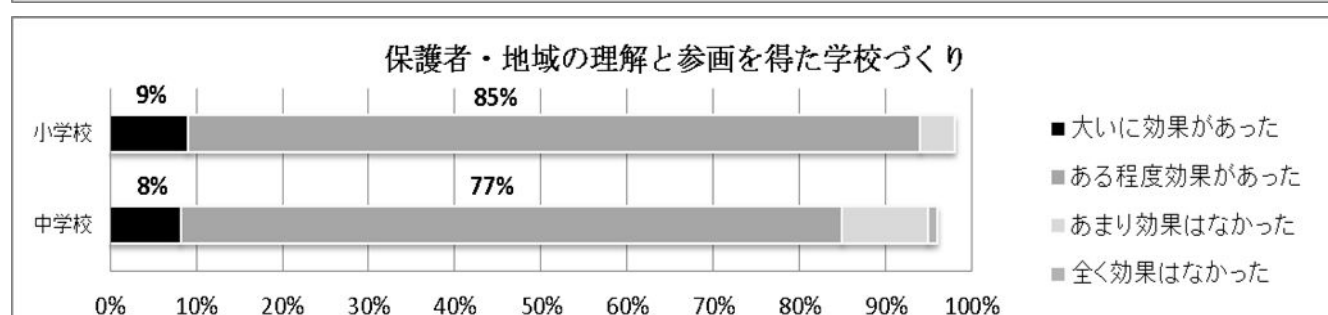
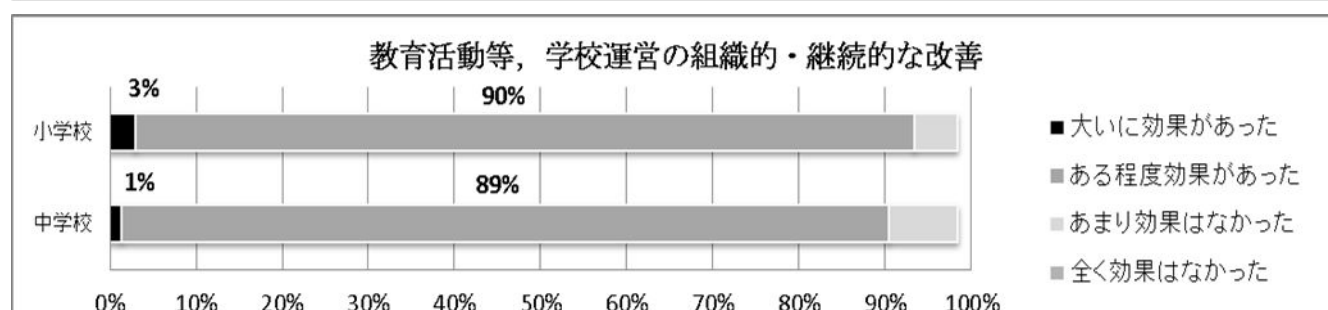
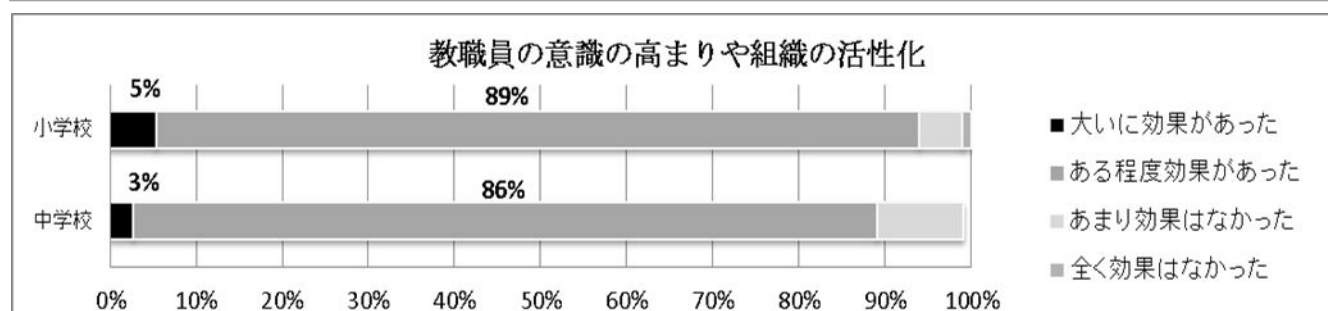
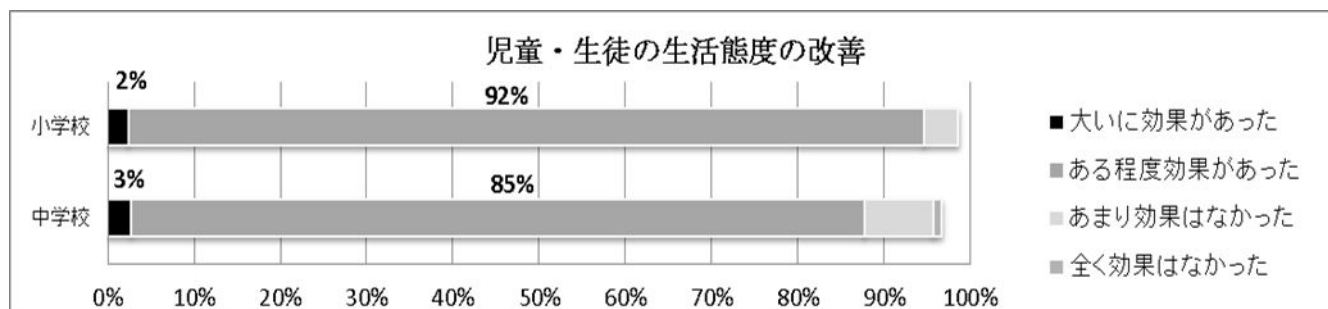
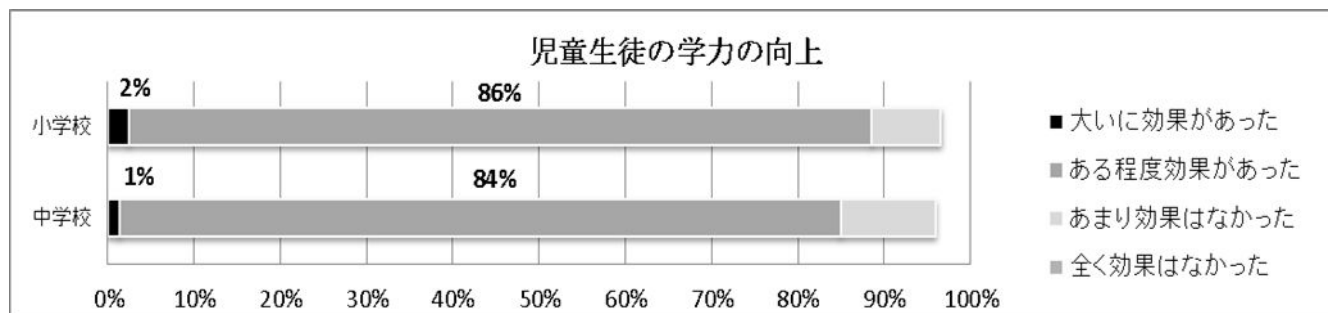
学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



(4) 学校評価の効果について

学校評価の効果については、8割を超える学校で児童生徒の学力向上や生活態度の改善等に効果があるとの結果が出ている。これは、学校評価により子どもたちの課題を適切に捉え、教育活動の充実・改善に取り組んできた成果と考えられる。また、教職員の意識の高まりや組織の活性化、教育活動等学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりといった、子どもたちを取り巻く学校・家庭・地域の力を向上させる観点からも効果が認められることから、今後も、学校評価を「社会総がかりで子どもたちの学びと育ちを支える仕組み」として、学校改善のために有効に活用できるよう取組を進めていく。

学校評価の効果について



(5) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

本市の学校評価システムは、「自らを振り返り、互いに高め合う」ことを理念としており、学校・家庭・地域が「子どもを育む当事者」として関わることを重視している。

そのため、評価項目等も各校の課題に応じて重点化して設定している。一方、学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で

学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項の「・・・評価について調査し、審議するため」の委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（26年度）敬称略・肩書は委員任命当時のもの】

○天笠 茂	千葉大学教授
加藤 明	関西福祉大学学長
◎小松 郁夫	常葉大学教授
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長
辻 敏夫	公募委員（砂川小学校学校運営協議会委員）
西尾 美智代	PTA 代表（正親小，京都市小学校 PTA 連絡協議会会計）
西川 信廣	京都産業大学教授
堀内 孜	環太平洋大学副学長
森 祥子	公募委員（蜂ヶ岡中学校学校運営協議会委員）
高橋 由記子	京都市立西院幼稚園長
岸田 蘭子	京都市立高倉小学校長
秦 和之	京都市立加茂川中学校長
中東 朋子	京都市立桃陽総合支援学校長
大林 照明	京都市教育委員会学校指導課長

※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての的確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。

その結果、「学校課題について、校長がリーダーシップを取って懸命に学校運営に取り組んでいることがよくわかった。今後は、小学校・中学校が連携して課題解決に向けて取り組んでいければよいと思う。」「学校課題の解決に向けては、京都市の番組小学校の原点である『学校・家庭・地域の連携』に立ち返ることが大事なのではないか。」等の評価をいただいた。

また、今後に向けた課題としては、「学校評価の取組を学校課題の解決・改善に活かせるよう実効性を上げ、京都市立学校での学校評価の取組をより充実させていかなければならない。」「学校評価と学校運営協議会を、学校の課題を解決するためのPDC Aサイクルを回す役割として、組織的に連携させる必要がある。」等の意見をいただいた。

なお、平成26年度の学校評価の実施にあたっては、「学校評価実施報告書」の様式について、学校教育目標の実現に向けた個々の取組の効果を検証することでさらなる改善につなげるという流れをより理解しやすい形になるよう改善を図った。（14ページ参照）

【第三者評価の実施校】

以下の学校において、校長・担当教員ヒアリング、授業観察等を実施。

① 京都市立小野小学校

- ・日 時 平成27年2月24日（火）9：30～12：00
- ・委 員 天笠副委員長（リーダー）、加藤委員、辻委員、西尾委員、森委員

② 京都市立勸修中学校

- ・日 時 平成27年2月24日（火）13：30～16：00
- ・委 員 天笠副委員長（リーダー）、加藤委員、辻委員、西尾委員、森委員

③ 京都市立松陽小学校

- ・日 時 平成27年2月25日(水) 9:30~12:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 塩尻委員, 西川委員, 高橋委員

④ 京都市立檜原小学校

- ・日 時 平成27年2月25日(水) 13:30~16:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 塩尻委員

⑤ 京都市立九条弘道小学校

- ・日 時 平成27年3月2日(月) 9:30~12:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 西川委員, 堀内委員, 塩尻委員, 岸田委員, 中東委員

⑥ 京都市立花山中学校

- ・日 時 平成27年3月2日(月) 13:30~16:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 西川委員, 塩尻委員, 岸田委員, 中東委員

⑦ 京都市立凌風小中学校

- ・日 時 平成27年3月3日(火) 9:30~12:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 加藤委員, 辻委員, 西尾委員, 秦委員

⑧ 京都市立勸修小学校

- ・日 時 平成27年3月3日(火) 13:30~16:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 加藤委員, 辻委員, 西尾委員, 秦委員, 中東委員

ウ 平成26年度 検証委員会開催状況

① 第1回会議

- ・日 時 平成26年12月15日(火) 13:00~
- ・会 場 京都市総合教育センター1階 第2研修室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
学校評価及び学校運営協議会について
- ・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 小中一貫教育に先進的に取り組んでいる学校について, 学校評価の観点からも見ていきたい。
- 学力向上に焦点を当て, 地域ぐるみで取り組んでいる学校の訪問を検討してほしい。
- 学校評価や学校運営協議会を, 地域力を活かした学校運営体制構築のための有効な手段として意識し実行しようとしている学校を見ていきたい。

(学校評価及び学校運営協議会について)

- 現状, 全国的には学校評価への理解が十分ではなく, アンケートと学校関係者評価の区別さえできていない学校もある。一方, 欧米では学校のソーシャル・アウトカム(社会的成果)が評価項目として重視されており, 国際的な流れになっている。その中でも京都市の「保護者・地域と学校をつくっていく取組」は評価に値する。
- 各校の評価項目として, 子どもの姿(確かな学力・豊かな心・健やかな体)を中心に, 結果がどうであったかというまとめ方が中心になっているが, 「そのために学校は何をして

きたか」という学校独自のマネジメントの部分や、小中連携を深めるための取組等についても評価の中で振り返り、充実させていけるように活用を進めていくことが望ましい。

- 保護者側が学校の取組をどのように評価したらよいか迷われていることがある。学校から「学校の取組」や「関連の評価項目」を並べて見えるようにして評価の基準を示したり、評価の意味について説明を加えたりするなど、アンケートを取る際に工夫を加えることで、保護者としても回答がしやすくなるのではないか。
- 校長に対するアンケート結果では、「学校評価」は学力向上に効果があると9割が回答しているが、「学校運営協議会」による学力向上への成果は1割程度しか感じられていない、というギャップがある。学力向上に家庭・地域の力を生かしていく意識を学校がもっと持つていくことが必要なのではないか。

② 第2回会議

- ・日 時 平成27年6月3日(水) 15:00～
- ・会 場 京都市総合教育センター3階 第5研修室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
今後の検証委員会の方向性等について

・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 山積する学校課題について、校長がリーダーシップを取って懸命に学校運営に取り組んでいることがよくわかった。今後は、小学校・中学校が連携して課題解決に向けて取り組んでいければよいと思う。
- 小中一貫教育について、分離型と施設一体型という環境の異なる2つの中学校ブロックを訪問することを通して、それぞれの特徴や良さを踏まえて、どのように子どもたちの教育に活かしていくかが大切だと思った。
- 解決すべき学校課題を学力向上と捉えるのであれば、まずは学習規律の定着が重要である。訪問した学校については、生徒指導の取組が着実に成果を上げている段階であるので、ぜひ学力向上に関しても校長のリーダーシップを発揮し取組を進めていただきたい。
- 学校を取り巻く環境や生徒指導が厳しい中でも、校長が明確な学校運営方針を示し強いリーダーシップで運営し、教職員も日々苦勞しながら頑張っていることがわかった。学校の課題解決に向けては、京都市の番組小学校の原点である「学校・家庭・地域の連携」に立ち返ることが大事なのではないか。
- 学校評価において、学校図書館のリニューアル(ビフォア・アフター)を含め、学校施設の整備も大切な視点ではないか。学校は子どもたちが日々生活している場所であり、学校の佇まいを整えるという点も今後取り組んでいってほしい。また、新しい施設の学校については、その良い教育環境を子どもたちがどう使っていけるかが大事だと感じた。
- 学校運営協議会が学校の応援団として働いてくださっているのは、学校としては大変力になることである。支援型の学校運営協議会のありがたさを感じた。
- 訪問した小学校2校(檜原小・松陽小)は、校長同士の意思疎通はもちろんのこと、学校評価の項目を合わせたうえで両校が結果を交換する等の工夫をされており、かなり小中連携が進んでいると感じた。
- 子どもたちに具体的につけたい力を学校教育目標としていた。具体性がありわかりやすく、評価できる。
- 学校評価の評価項目について、子ども・教職員・保護者それぞれがそれぞれの立場で振り返りができている点が良かった。
- 学校運営協議会においては、学校評価の項目検討をはじめ学校の課題解決に大変に尽力いただいている。学校運営協議会の運営をさらによいものにするためには、現在その学校が

置かれているステージ（設立期→安定期→変革期）を把握することが大切だと思う。そのうえで、どのような運営をしていくかを検討することが大事。学校運営協議会という組織を基礎に、地域や保護者の方々が学校の日常の下支えをして下さっている。

（今後の検証委員会の方向性等について）

- 学校評価の取組を学校課題の解決・改善に活かせるよう実効性を上げていくこと、また、全国的にコミュニティ・スクールの必置について検討が始められていることを踏まえ、京都市立学校での学校評価・学校運営協議会の取組をより充実させていくことができるよう、検証を進めていきたい。
- 学校評価と学校運営協議会は、学校の課題を解決するためのPDCAサイクルを回す役割として、組織的に連携させる必要がある。学校の課題を分析し（チェック）、支援を実行する（アクション）するという過程で、学校運営協議会をどのように活用していくかが重要である。法律で決められたとおりの学校運営協議会の仕組みでは学校現場に負担をかける恐れもあり、何らか工夫を加えるという視点も持つべき。
- 子どもたちの9年間の学びと育ちを支える学校教育という観点からは、検証委員会として同一中学校区の小中学校を訪問するということも重要なことである。
- 各学校の校長は、それぞれ主体的に頑張っている。それらを検証委員会が客観的にどう評価するかという方法を模索する必要がある。国の教育制度が大きく変化していく中、学校の主体性を大事にしながら評価力の向上を図ることができるよう、よりよい学校評価及び学校運営協議会の在り方を協議していきたい。
- 学校評価や学校運営協議会の実質的な活用が十分ではない学校も多いはずである。学校運営協議会に対し校長から学校運営方針の説明を十分に行い、思いを共有したうえで子どもたちや保護者へアンケートを取るという仕組みを整えないといけないと思う。
- 学校評価や学校運営協議会という制度が少しずつ根付いてきた中で、今後、第三者組織である検証委員会をどのように活用していくべきかを再考することが大事ではないか。様々な会社や団体で何かが起こった後に第三者組織を設置している中、何かが起こる前から第三者組織である検証委員会を存在させていることには意義がある。検証委員会の活用方法について次の展開を検討していきたい。
- 京都市においては、昔から地域が学校を支えてきたという歴史がある。そんな伝統を持つ京都市の学校運営協議会の取組に焦点を当て、京都ならではの地域と連携した取組を大切にしていきたい。また、京都市の学校評価や学校運営協議会においては、校長のリーダーシップの育成が大切である。校長を支える行政の役割も明確にしていきたい。

（6）新・学校評価支援システムの導入・充実

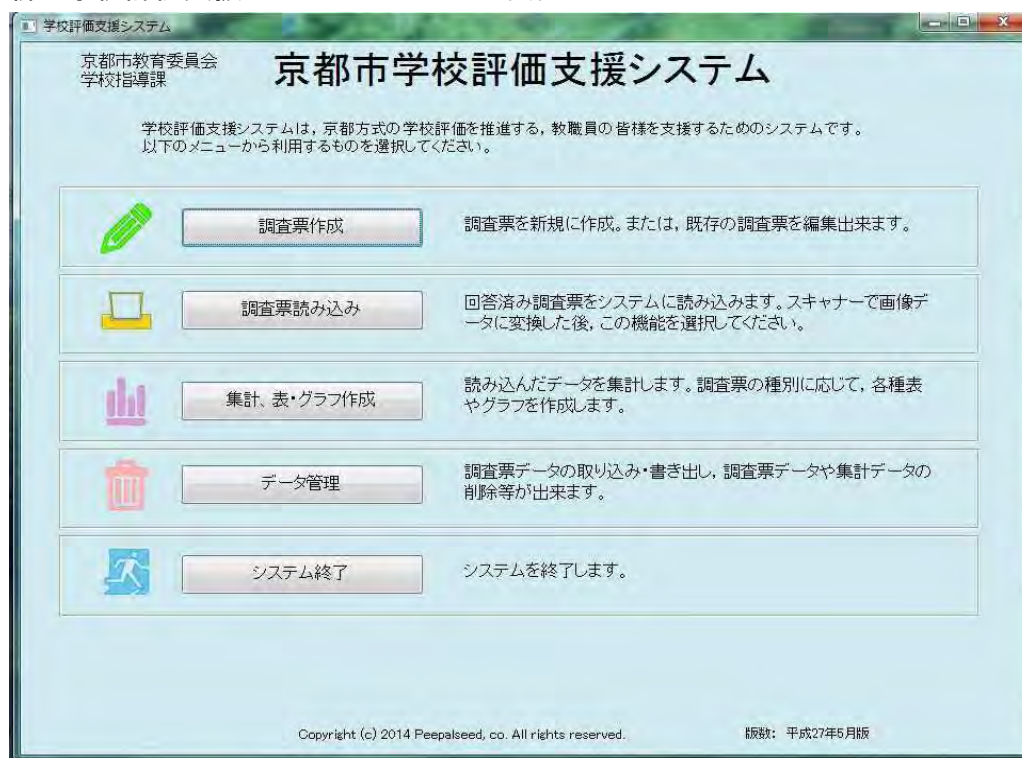
ア 概要

平成20年度から活用してきた学校評価支援システム（旧システム）は、その運用開始から6年が経過したことから、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面でも、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自の「新・学校評価支援システム」を開発し、平成26年6月末から運用を開始した（平成26年度は旧システムとの併用期間とした）。

また、平成27年6月には、学校からの希望を反映し、アンケート作成や集計をより効率的に、結果分析をより多面的に実施できるようにするため、「アンケート結果の学年・組での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等新たな機能を追加した。

- ネットワーク上ではなく、パソコン単体での動作が可能（セキュリティの改善）
- アンケート作成・集計・分析・データ管理の機能を一つのシステムメニューに統合
- アンケート作成では、保存した内容の編集や複製が可能
- 集計結果のグラフ化をする際のカラー・白黒印刷のパターン切替えが可能
- アンケート結果の学年・組での絞り込みが可能
- 他校で作成したアンケート項目の取り込みなど他校との共通アンケートの実施を容易に

<新・学校評価支援システムのメニュー画面>



イ 活用状況

学校評価支援システムを導入している学校は、小中学校合わせて183校となり、前年度から増加した。そのうち、学校評価支援システムを活用した「重要度」と「実現度」との両方を聞くニーズ調査型アンケートを94校で実施している。新システムにおいて、アンケート作成・集計・分析・データ管理の機能を一つのシステムメニューに統合したことにより、アンケートの実施から分析までを一連のシステムで行うことが可能となり、学校改善に向けての利用が進んでいるものと考えられる。

アンケートの実施状況 ※	小学校		中学校		合計	
「重要度」と「実現度」を聞くニーズ調査型アンケートの実施	69	41.6%	25	34.2%	94	39.3%
「実現度」のみを聞くアンケートの実施	55	33.1%	34	46.6%	89	37.2%
合計	124	74.7%	59	80.8%	183	76.6%

※学校評価支援システム（新・旧システム）を活用してアンケートを実施している学校の状況

(参考)

1. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

(3) 以下の各項目について、「(A)どのくらい重要だと思うか(重要度)」と「(B)実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	わからない
1	子どもが適切な言葉づかいをすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	子どもが丈夫な体をつくろうとすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. ニーズ調査型(魅力・課題発見型)分析の例

新・学校評価支援システムでは、旧システムに引き続き、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

分析結果例

質問文	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	6.6	3.9	27.1
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	6.6	4.4	23.8
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	6.7	4.6	22.9
子どもが他人を思いやり、親切にすること	6.7	4.7	22.5
子どもが楽しく学校に通っていること	6.7	3.3	18.4
子どもが将来の夢や希望について考えること	6.3	4.1	24.5
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	6.3	3.8	26.2
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	5.9	5.1	17.4
学校がいじめのない学校づくりに取り組んでいること	6.9	5.3	18.4
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	6.9	5.6	16.7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	6.5	4.8	20.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること	6.1	5.2	17.1

■は、重要度が高い項目

■は、実現度が低い項目

■は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

分布

高↑ 実現度 ↓低	重要度も実現度も高い項目		自校の魅力	
	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること 保護者が学校行事(授業参観・懇親会など)に参加すること 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること 保護者・教職員が、地域行事に参加すること 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが学校行事への参加が意欲的であること 学校の教育方針が保護者に伝わっていること 交通・火災・地震・不審者対策などの安全教育を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が子どもの学力や努力を適切に評価していること 子どもが楽しく学校に通っていること 学校がいじめのない学校づくりに取り組んでいること 学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと 子どもが毎日朝食をとること 子どもが授業の中で満足感や達成感を持つこと 子どもに教科等の基礎的な学力が身に付いていること
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが地域行事へ参加すること 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに読書の習慣が身に付いていること 子どもが将来の夢や希望について考えること 子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること 子どもが丈夫な体をつくろうとすること 子どもが適切な言葉づかいをすること 子どもの家庭学習が習慣化していること 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが他人を思いやり、親切にすること 学習効果を上げるため、教師が指導法の改善をすること 子どもが適切な睡眠時間をとること 子どもがすすんであはれをする 	<p>また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。</p>

低←重要度→高

重要度が高く、実現度が低い項目

(7) 文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」の実施

本市の学校運営協議会は、学校運営の基本方針の承認や学校教育活動に対する協議を行うだけでなく、具体的な学校支援活動を行うボランティア組織である「企画推進委員会」の取組と一体的に運営しており、それぞれの地域の特性を生かしながら様々な活動が展開されている。

このような地域ぐるみの教育を基盤としながら、義務教育9年間の子どもたちの学びと育ちを支援する体制を整え、かつ、学校・家庭・地域が協働性を高め自律的に教育活動を充実させていくことができる学校評価や学校運営協議会の在り方について研究を進めていくため、文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」を受託した。

学校評価や各種学力調査の結果から見えてきた成果・課題とそれに対する学校の対応について、小中合同の学校運営協議会で検証を行い、学校と学校運営協議会が一体となって実施していく協働体制の構築を目指している。

<研究指定>

- ① 勸修中学校区（勸修小学校，小野小学校，勸修中学校）
- ② 久世中学校区（大藪小学校，久世西小学校，久世中学校）
- ③ 双ヶ丘中学校区（御室小学校，宇多野小学校，花園小学校，双ヶ丘中学校）

3つの中学校区は、研究開始時点でそれぞれ①「学校運営協議会未設置校を含んだ中学校区」、②「全校で学校運営協議会を設置している中学校区」、③「既に小中合同の学校運営協議会を設置している中学校区」と状況が異なっていたが、いずれにおいても従来からの学校の取組や地域からの支援を再構築しながら、新たな協働体制の整備・充実に取り組んだ。その結果、義務教育9年間の小中の縦のつながりと、学校運営協議会を核とした地域ぐるみの教育の横のつながりが共に深まりつつあり、他の中学校区においてもそれぞれの学校運営協議会の設置状況に応じて参考となる取組が進められている。

また、学校評価結果や各種学力調査結果を学校運営協議会で共有・検証を行っていく取組も進められており、自律的な学校改善のシステムの基礎が構築されつつある。平成27年度においても各中学校区での取組を継続し、学校運営協議会を核として学校・家庭・地域との連携を一層深めながら児童生徒の学び・育みの充実につながる自律的・組織的な改善システムの構築を図っていく。

(8) 学校評価実施報告書の様式の改善

中間評価と年間評価の年2回教育委員会に提出される学校評価実施報告書の様式について、学校教育目標の実現に向けた個々の取組の効果を検証することでさらなる改善につなげるという流れをより理解しやすい形にし、平成26年度報告から使用している。（様式は16ページ参照）

<様式の変更箇所>

○評価項目ごとに記入する内容を以下のとおり変更し、これまで以上に評価項目と取組の関係や設定した評価指標の結果と分析・改善策との関係が分かりやすい形とした。

（変更前）「評価項目」，「評価指標」，「分析（成果と課題）」，「改善策」

（変更後）「評価項目」，「自校の取組」，「アンケート項目・各種指標」，「アンケート結果・各種指標結果」，「分析（成果と課題）」，「改善策」

○評価の分野（「確かな学力」等）ごとに、自己評価，学校関係者評価の記入欄を横に並べ、関係が分かりやすい形とした。

(変更前の様式)

平成25年度 学校評価実施報告書 (京都市立 学校・園)No.1

1 平成25年度 重点評価項目

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : _____ 評価者・組織(名称) : _____ 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1		
2		
3		
4		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : _____ 評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策

(京都市立 学校・園)No.2

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : _____ 評価者・組織(名称) : _____ 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1		
2		
3		
4		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : _____ 評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策

4 総括・次年度の課題

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名()

1 平成26年度 重点評価項目

--

2 1回目評価

No	重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価		学校関係者評価	
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	自己評価に対する改善策	評価日	学校運営協議会・学校評議員による意見
						評価者・組織		評価者(いずれかに口)	
1	確かな学力					分析(成果と課題)		学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
2	豊かな心								
3	健やかな体								
4	独自の取組								

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名()

3 2回目評価

No	重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価		学校関係者評価	
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	自己評価に対する改善策	評価日	学校運営協議会・学校評議員による意見
						評価者・組織		評価者(いずれかに口)	
1	確かな学力					分析(成果と課題)		学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
2	豊かな心								
3	健やかな体								
4	独自の取組								

4 総括・次年度の課題

--

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないよう、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年2月		○中教審答申『今後の教員免許制度のあり方について』 「…学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する…」
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」(実践事例集・ガイドライン)発行	

年月	京都市	国
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた…「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童・生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」

年月	京都市	国
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定 (学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○「学校教育法施行規則一部改正」 (学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184校設置	
H25年3月	○学校運営協議会 192校設置	
H26年3月	○学校運営協議会 210校設置	
H27年3月	○学校運営協議会 229校設置	

Ⅱ 学校での取組事例

学校評価のねらい 学校教育目標達成に向け、教職員が教育活動についての成果や課題を明らかにし、家庭や地域、児童の声を学校運営に反映させることによって、共に手を携えて今後の教育活動の改善・充実・発展につなげていく。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	教育指導計画書の作成 学力向上のためのプランの具現化 学校評価実施に向けた企画 家庭訪問		学校だより 教育方針の発信
	5	教職員自己目標設定	第1回運営協議会 ・学校教育方針の説明 ・学校評価計画の説明	学校だより 学校教育目標の具体策 評価年間計画をHPに公表
	6	評価項目の検討 (教職員・保護者・児童等)		
	7			
	8			
	9	前期自己評価の実施 児童アンケートの実施 保護者アンケートの実施		
	10	評価結果(教職員・児童・保護者)の 分析と改善策の検討		
	11		第2回運営協議会 ・学校運営協議会による 評価の実施	学校だより・HP 前期評価結果と改善策を 公表
	12			
	年 間	1	後期自己評価の実施	
2		児童アンケートの実施 保護者アンケートの実施 評価結果(教職員・児童・保護者)の 分析と改善策の検討	第3回運営協議会 ・学校運営協議会による 評価の実施	
3		次年度の方針と共通理解	第4回運営協議会 ・次年度の方針を説明	学校だより・HP 評価結果と改善策を公表

平成26年度 京都市立九条弘道小学校 経営方針

学校教育目標

夢に向かって 自分らしく輝く 九条弘道の子

学びいっぱい ， 笑顔いっぱい ， 元気いっぱい

～子どもの実態から学び，子どもに届く教育実践を通して～

めざす子ども像

学びいっぱい … 自分で考え 進んで行動する子

笑顔いっぱい … 力を合わせ 高め合う子

元気いっぱい … 思い切り遊び 元気な子

めざす学校

一人一人が自信を持ち，目を輝かせ，笑顔の学びがある学校

【笑顔で登校し，笑顔で下校する九条弘道小学校】

- ☆「わかる喜びと学ぶ楽しさ」が感じられる授業がある。
- ☆一人一人が力を発揮し，認められる場がある。
- ☆学び合い，より高め合う「学ぶ集団」がある。
- ☆向き合い話を聞いてくれる先生がいる。

【教職員が力を十分に発揮できる やりがいのある九条弘道小学校】

- ☆教職員が健康で活気にあふれている。
- ☆常に子どもの側に立った姿勢で指導できる。
- ☆生き生きとした教育活動の実践を通して，子どもの成長が実感できる。
- ☆情熱を持ち，協働体制を通して教育活動を推進できる。

【保護者や地域の人々と 手を取り合って育てる九条弘道小学校】

- ☆家庭・地域の人材へ積極的に働きかけ，何ができるのか提起し，共に考える。
- ☆基本的な生活習慣の確立をめざし，家庭学習や読書の習慣をつける。
- ☆学校・学級からの情報発信を積極的に行う。
- ☆地域コミュニティの活性化を図る。

教育目標達成のための基本方針

人権尊重を基盤にし、一人一人を徹底的に大切にし、
子どもの個性や能力を生かし伸ばす教育を進める

◎教育活動全体を通して人権尊重の意識を高め、先生と子ども、子ども達相互の絆づくりを大切にし、あらゆる偏見や差別のない信頼関係に基づいた温かい教育の場の実現を図ると共に、子ども達が安心して安全に過ごせる場をめざす。

◎難聴教育を本校の人権教育の柱として位置づけると共に、これまでの同和教育の成果を踏まえ、全ての子ども達の学力向上と家庭の教育力の向上の支援等、人権教育の取組を基本に据える。

【学びいっぱいの子】に育てるために

*学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図る九条弘道教育を推進する。

◎自分の夢や願いの実現に向け、豊かに主体的に生きるために必要な基礎・基本の徹底を図ると共に、一人一人が自分の考えを持ち、それを表現して活用する力を身につけられるよう、指導内容や指導方法の改善に努める。

【笑顔いっぱいの子】に育てるために

*互いに支え、高め合うことのできる子どもたちの絆づくりを支援する。

◎人や自然・社会とふれ合う豊かな体験活動など仲間と共に学び感じ合う中で、すべての子どもが自己有用感を感じ、相手のよさを見つけようと、互いに協力する子ども相互のつながりを積極的に支援する。

【元気いっぱいの子】に育てるために

*自分を大切にし、たくましい心と体を育てる教育を推進する。

◎望ましい生活習慣の実践を通して、自分の健康や安全を管理し、生活を改善しようとする意欲や態度を育てる。

【子どもの育ち】を共に支えるために

*家庭・地域に信頼され、互いに高め合う開かれた学校をつくる。

◎徹底した家庭訪問を展開し、「学ぶ意欲」と「学ぶ習慣」をつけるため、生活リズムの確立や家庭学習の習慣化に向けた取組を、家庭・地域と共に推進する。

◎教科学習や総合的な学習、校内外での様々な行事、部活動、読書活動、環境整備など、様々な「ひと」との出会いの中で子ども達を育てる。

最重点課題

学力の向上

「基礎・基本」の定着, 「生きる力」の育成

—教育の実質的な平等の実現に向けて—

- ◎全ての教育活動において「子どもを守る」という視点からの取組と, 「子どもを育てる」という視点からの取組を行い, 徹底的に子どもの人権を尊重する。
- ◎学力を「読み・書き・計算」といった知識・技能(学んだ力)のみだけでなく, 「思考力・判断力・表現力」(学ぶ力)及びそれらを支える「学ぼうとする意欲」も含め, 総合的な力として捉え育成する。
- ◎色々な条件の中で支援を必要とする子どもを焦点化し, 徹底的に子どもに寄り添い, 個に応じた指導のあり方を授業実践を通して研究する。
- ◎地域や保護者に教師の顔が見える取組を推し進め, 学力向上に向けた学習習慣の確立, 生活リズムの向上を図るよう具体的な働きかけを行う。

*確かな学力をつけきるために

①一人一人が輝く 学級経営

- ・「学ぶ学級集団」を育てる指導に全力を
- ・焦点化した子どもの姿を通した「子ども理解」を
- ・叱るべき時はきちんと叱り, 教えるべき時はきちんと「教えきる指導」を
- ・掲示物を工夫し, 日常の「言語環境の整備」を

②一人一人の学力を最大限に伸ばす 授業改善

- *「授業で育てる」, 子どものつまずきを明確に
- *焦点化した「子どもを常に意識した」授業の展開を
- *一人一人の学習活動の場を確保し, 「表現する機会」の設定を
- *家庭学習を中核とした「生活リズム」の確立を

③人とかかわる力を育てる 教育活動

- *九条弘道ピアサポートを通して, 人と「かかわり合う喜び」を
- *九条弘道アントレプレナーシップ教育を通して, 「生きる力」を
- *家庭訪問を通して, 家庭の果たす役割の「発信・提起」を
- *学校運営協議会を通して, 学校教育活動に「参画」を

九条弘道小学校の学校評価について

1 評価のねらい

学校関係者の意見と自己評価を相互作用させ、保護者・地域と共に、学校教育目標の達成に向けた教育活動の充実を図る。

2 重点評価項目

- 学力向上（基礎基本の定着、読書の習慣化、小中一貫教育の推進）
- 人権感覚の育成（生きる力、規範意識、自己有用感・豊かな心の育成）
- 健やかな心と体の育成（生活リズムの定着、命を守る態度の育成）

3 評価手法

教職員・保護者・児童・地域に対するアンケート調査を実施した。アンケート結果の他、全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムの結果、質問項目の内容、取組や行事・授業等での子どもたちの活動の様子や態度、小中一貫教育の取組状況などについても評価の判断材料として分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、「学校評価支援システム」を活用し児童は集計結果を、保護者はニーズ度の高い項目を示す形でアンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 小中一貫教育を含めた授業改善と、学力向上について

アンケート結果によると、「学校が楽しい」、「授業はわかりやすく楽しい」、「家で15分×学年の学習（家庭学習）ができています」と95%以上の児童が回答している。6年生のジョイントプログラムでは、総合（国語・算数）の正答率が5年生期と比較して5%上昇した。学力向上を最重点課題として取組を推進し、「構造的な板書」や「ノート検定」等を導入するなど、授業改善につなげてきており、学力補充や補習学習の取組や15分×学年の家庭学習の習慣が定着してきた結果と考えられる。また、小中一貫教育で、9年間の「学習プラン」の試行版を作成し、「書く」ことに特化した言語活動の充実とプランを試行する中で授業改善に取り組んだことも成果に結び付いていると考えられる。

「本を読むことが好きで進んで本を読む」の項目では、約80%以上の児童ができていますと回答している。学校図書館のリニューアル（ビフォア・アフター）を実施し、児童を本好きにする取組や読書習慣の育成の取組を行った結果、昨年度に比べて10%以上向上してきている。また、保護者アンケートの中で、読書の項目がニーズ度の最も高い項目となった。そこで、学校運営協議会主催の「子どもを語る会」の中でも、「めざせ！読書好き！！」というテーマで、児童を読書好きにし、読書習慣の育成を図るために、学校ができること、家庭ができること、地域ができることを話し合った。さらに、学校だよりや学校運営協議会Newsで、家庭でできることを知らせることで、家庭とともに「本好きな子どもの育成」を図ってきた。

保護者や地域に対しても、アンケート結果を掲載した学校だより（11月・3月）を配布し、学力の定着・向上のためには、家庭学習の習慣化の他、読書力が大きく関係することや家庭の協力が不可欠であることを発信してきた。

(2) 人権感覚の育成や自己有用感の向上、安心・安全の取組について

児童へのアンケート結果によると、ほとんどの子どもたちが「学校が楽しい」、「友達と仲良く」と回答し、また、「学校のきまりの遵守」や「挨拶」についての規範意識等の項目については約90%以上ができていると回答するなど、「なかよしの日」や「人権月間」等の人権教育の取組や規範意識の向上に向けた取組が定着してきていると考えられる。学力向上には、児童の自己有用感を上昇させるとともに人権感覚や規範意識を育み、安心して登校し学校生活が送れるようにすることが必要だと考えている。そのため、人権感覚の育成には、難聴教育を中心とした人権教育の充実に向け、学校全体として授業を検討し、授業力の向上を図っている。また、自己有用感の向上のために、学校全体でピアサポートの取組やアントレプレナーシップ教育（子どもたちに創造力・判断力・コミュニケーション力・チャレンジ精神・決断力など、起業家が持つ資質能力を育むことをねらいとして行う教育）を展開し、大きな成果を上げてきている。規範意識については、小中一貫教育で「生活プラン」の試行版を作成し、つきたい力を明確にしたうえで、9年間を見通した系統的な教育を目指している。今後は、「生活プラン」を実践して充実させていこうと考えている。この他、学校運営協議会主催の「子どもを語る会」の中での「ほめよう！伸ばそう！」と「毎日を安全に！」について、話し合った結果を受け、保護者・地域を巻き込む取組で、学校とともに児童に率先して声をかけ、名前を呼び見守るという実践をしたことで、児童の自己有用感が向上してきた。

5 自己評価

学校評価実施報告書（35，36ページ）を参照

6 学校関係者評価

本校では、自己評価の結果を踏まえ、学校運営協議会理事による学校関係者評価を実施している。学校関係者評価では、「学校の様々な取組や自己有用感を高める行事等が行われ、このように『学校は楽しい』『授業は分かりやすく楽しい』『できるようになった』と思う児童が多くなっているのは素晴らしいことである」「『子どもを語る会』での話し合いを受け、みんなが実行した結果、児童が大きく成長した」等の高い評価をいただいた。今後の取組に関しても「中学校でも同じことを言っておられたので中学校と連携して同じ項目を検討していく等の小中一貫教育を視野に入れた評価を行っていくと良い」というご意見をいただいた。

7 総括・次年度に向けた課題等

○小中9年間を系統立てた「学習プラン」や「生活プラン」の試行版を作成し、授業改善や人権教育、アントレプレナーシップ教育等の行事や取組を通して、自己有用感や規範意識を高め、学力向上につなげてきた。今後は、小中一貫教育で、各プランを実践し、児童・生徒の学力向上に向けて実践・検証を行っていく。

○また、学校運営協議会とさらに連携・協働して評価を実施していきたいと考えている。具体的には、学校運営協議会の中に、「評価委員会」の組織を設立し、小中一貫した評価項目等を検討していく。また、学校運営協議会とともに、児童の安全のための取組も深化させていきたい。

九条弘道

京都市立九条弘道小学校
 学校だより
 平成26年11月5日
 校長 山田 小百合
 前期評価号

Tel:671-6981 Fax:691-3458 HP:http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kujokodo-s/

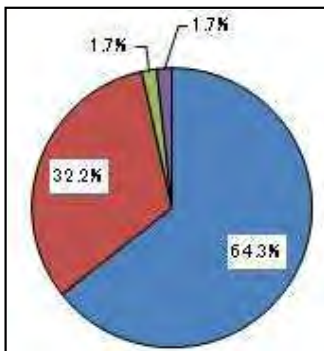
「前期学校評価アンケート」の集計結果をお知らせします。

空は深く澄み渡り、日増しに秋の深まりを感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お喜び申しあげます。平素は、学校教育に、保護者の皆様、そして地域の皆様方のご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございます。

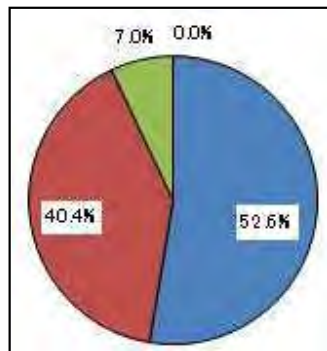
10月に実施いたしました「前期学校評価アンケート」に皆様ご協力いただき、本当にありがとうございました。ご協力いただいた「前期学校評価アンケート」の集計結果をお知らせします。

子どもアンケート(前期)集計結果について

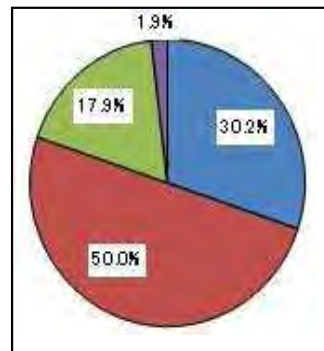
＜学校生活が楽しい＞



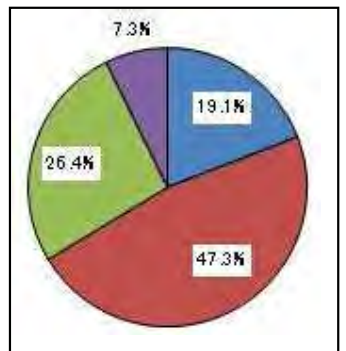
＜授業はわかりやすく楽しい＞



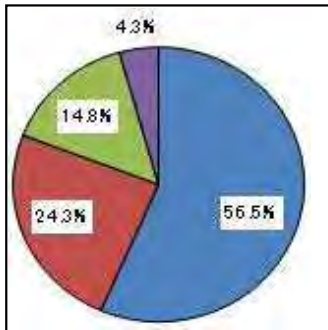
＜授業中、話を聞く進んで発表する＞



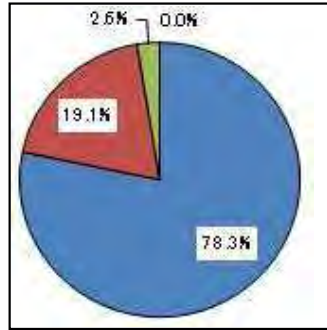
＜文字は丁寧に正しく書いている＞



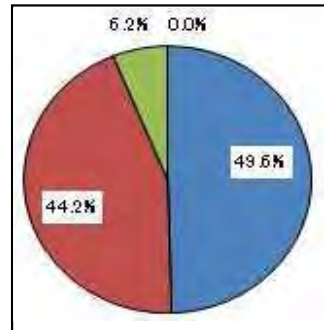
＜本を読む事が好きで進んで本を読む＞



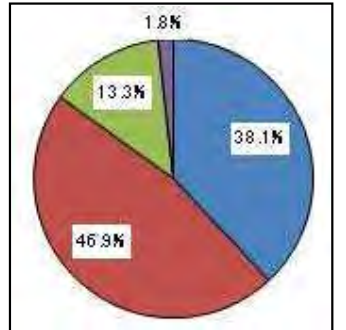
＜学校の友達と仲よくできている＞



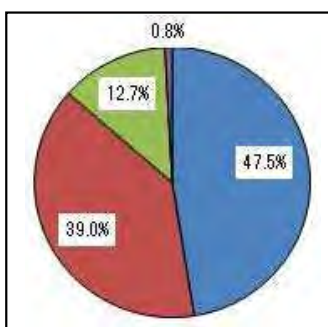
＜「九条弘道っ子の約束」を守っている＞



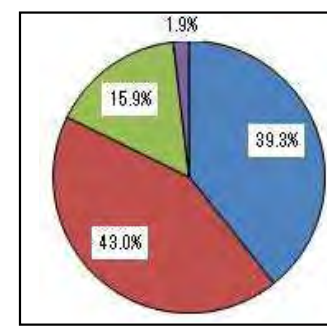
＜生活リズム表や時間を守っている＞



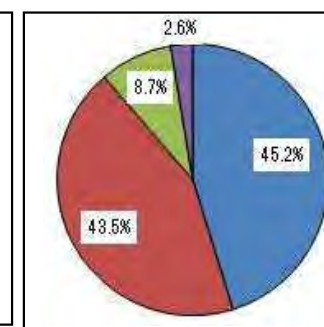
＜掃除の時間しっかり働いている＞



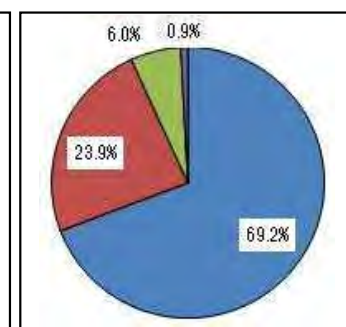
＜人や学校の役にたっている＞



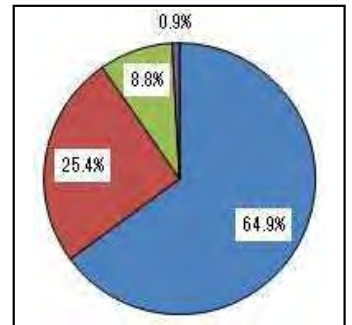
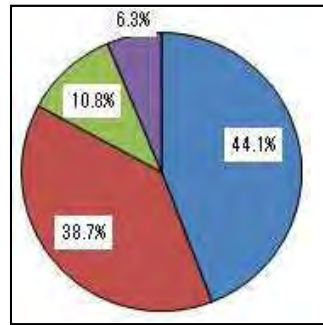
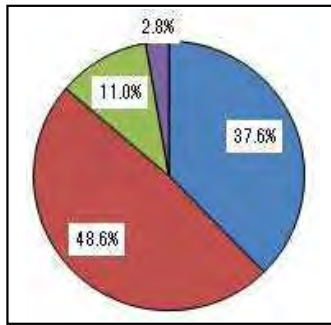
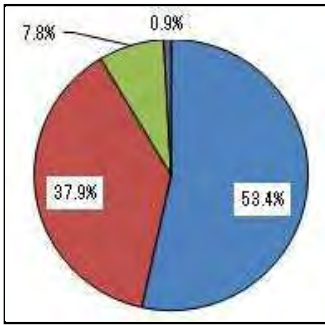
＜「ありがとう」やほめてもらっている＞



＜前期できるようになった事がある＞



<進んではっきり挨拶している> <人から注意された時に素直に謝る> <早寝・早起き・朝ご飯ができている> <家で15分×学年の学習ができている>

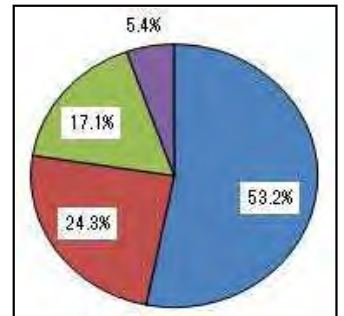
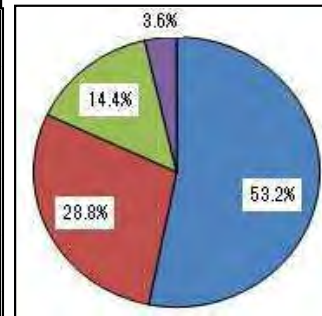


子どもアンケート質問項目

学校生活が、楽しい。
授業は、わかりやすく楽しい。
授業中、しっかり話を聞いたり、進んで発表したりしている。
文字は、いつもていねいで正しく書いている。
本を読むことが好きで、進んで本を読んでいる。
学校の友だちと仲よくできている。
学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を守っている。
予定や時間、生活リズム表などを守って、時計を見て行動ができている。
そうじの時間いっぱいしっかり働き、すみずみまできれいにしている。
クラスの人や他学年の人、学校などの役にたっている。
自分がしたことで、人に「ありがとう」と言ってもらえたり、ほめてもらったりしている。
前期の間に、できるようになったことやがんばっていることがある。
自分からいつも顔を見て、進んではっきりとあいさつをしている。
人から注意された時にすなおに聞いて、あやまることができる。
早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけた生活がいつもできている。
家で、15分×学年以上の学習がいつもできている。
家で、えんぴつをけずるなどの学習準備をして、忘れ物のないように気をつけている。
家で、お手伝いをよくしている。
安全に気をつけた行動ができたり、家で安全について話をしたりしている。
家の人に、学校からのおたよりをわたしたり、学校の話をよくしたりしている。

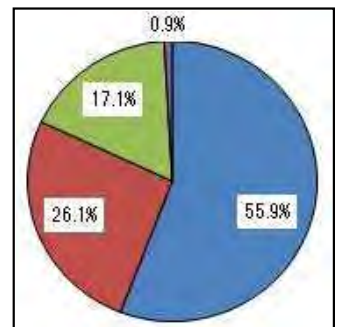
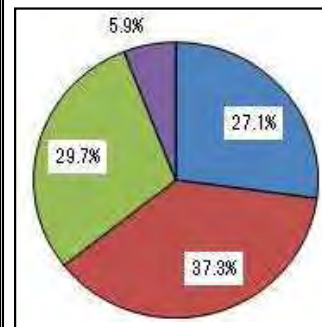
<家で学習準備をして忘れ物の内容にする>

<家でお手伝いをよくしている>

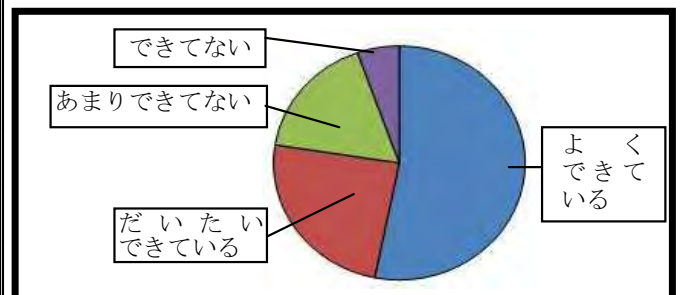


<安全な行動や家で安全の話をしている>

<家で学校の話をよくしている>



<円グラフのみかた>



子ども達は、「学校生活が楽しい」「友達と仲良くできている」の項目が95%以上の高い評価をしています。他にも「授業がわかりやすく楽しい」「できるようになったことがある」「家で15分×学年以上の学習ができている」「九条弘道っ子の約束を守っている」なども90%以上の高い評価でした。学校運営協議会の理事会で、「学校の様々な取組などによって、子どもたちは友達と仲良くできて、毎日楽しく学校に行くことができていることは素晴らしい」との感想をいただきました。本校の学校教育目標の実現に向けての取組や学力向上の取組などにより、子どもたちが目標をもって学校生活を送っていると感じます。今回、ノート検定に向けた「文字をていねいに正しく書いている」や防災や防犯などの「安全教育」に向けた「安全な行動や家で安全の話をしている」の項目が60%台という低い評価となりました。ご家庭や地域で、子ども達への声かけや話などを意図的にしていただき、子どもが意欲をもって取り組めるようご支援をお願いします。今後も、ご家庭や地域の方々と連携しながら、子どもの学力や能力などをさらに高めていきたいと思っております。ご協力、ご支援ありがとうございました。

「学校評価支援システム」を活用しての分析結果の見方について

本校では「学校評価支援システム」を活用しての「学校アンケート」を実施しております。保護者の皆様には、マークシート方式での学校アンケートに全員の皆様にご協力いただき、本当にありがとうございました。

昨年度より項目評価に、「重要度」「実現度」を同時にたずねる形式を取り入れています。重要だけれども実現度が低い項目が課題として浮かび上がるようにしている「ニーズ調査型アンケート」にしています。アンケートでの「重要度」とは、その項目が「どのくらい重要だと思うか」ということです。また、「実現度」とは、その項目が「どのくらい実現できていると思うか」ということで、子ども達の姿を通して評価していただきました。この2項目を同時に調査し、「学校評価支援システム」を活用して分析しますと、「ニーズ度」という保護者の方が求めておられる願いが浮かび上がるようになっております。

以下に、この集計からの分析結果の見方についてご説明いたします。

「重要度」と「実現度」の最高値は『7』です。

7に近いほど、重要であり、実現もできていると判断します。

特に高い値と低い値には、色がつけてあります。

「ニーズ度」は、“重要度×(8-実現度)”で計算されて、最高値は『49』です。重要度が高く、実現度が低いほど値が高くなります。「25」以上が「重点課題」に位置づけられて色がつけてあります。

質問文	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもは、安心して楽しく学校に通っている。	69	55	174
子どもは、しっかりと授業を受けている。	68	48	221
楽しく、分かりやすく、工夫した授業が行われている。	66	51	189
子どもに読書習慣がついており、進んで本を読んでいる。	61	34	284
子どもは、進んであいさつができています。	68	41	264

今回の「学校評価結果」については学校のホームページでも公表しております。カラーで見てくださいやすいですので、ぜひ、ホームページでもご覧ください。

「ニーズ度」は、値が高いほど『学校の課題』として位置づけなければならないものと見ることができます。

回答に表れた願い（ニーズ）を今後の学校の取組に反映させていきます。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「子どもを共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！



保護者アンケート(前期)分析結果について

今回の「前期 学校アンケート」には、全員の保護者の方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。以下に分析結果を載せさせていただきます。

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
楽しく学校生活が送れるように生活習慣を整えている。	6.7	4.9	20.8
学校の様子を知るために、参観や懇談会などによく参加している。	6.1	4.4	22
子どもは授業中、しっかりと話を聞いたり、進んで発表をしたりしている。	6.5	4	26
子どもは、いつもいねいで正しい字を書いている。	6.6	4.1	25.7
家庭では、よく読み聞かせをしたり本にふれ合わせたりしている。	5.8	2.9	29.6
子どもは、学校の友だちと仲よくできている。	6.8	5.7	15.6
学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を守らせている。	6.4	5.2	17.9
子どもは、生活リズム表や予定、時間などを守っている。	6.4	4.4	23
学校での取組や様子が、おたよりなどでよくわかる。	6.1	5.2	17.1
PTA行事や地域行事などによく参加している。	5.3	4.1	20.7
子どもがよい行いや努力をした時には必ずほめている。	6.8	5.4	17.7
子どもの願いや将来の夢などを知っている。	6.1	4.8	19.5
「おはよう」や「おかえり」などの挨拶を大人からしている。	6.6	5.9	13.9
子どもは注意された時、素直に謝ることができる。	6.7	4.3	24.8
いつも早寝、早起き、朝ごはんを守らせている。	6.6	5	19.8
子どもが家庭で学習できるように、環境を整えたり、声かけをしたりしている。	6.4	4.8	20.5
子どもは学習準備で必要な物をきちんと保護者に伝え、その準備物を家庭で	6.4	4.9	19.8
家庭では子どもに家族の一員として役割を持たせている。	6.3	4.6	21.4
子どもの安全を守るための声かけや話し合い、はたらきかけをしている。	6.6	5	19.8
子どもと学校の話をよくするなど関わりを多くもっている。	6.8	5.4	17.7

学校では、子ども達がすすんで本に親しむような読書習慣の育成を図っております。これまでもお知らせしましたが、学校では図書支援員や学校教育支援ボランティアの方々のご支援を得ながら図書室を整備し、読書環境を整えております。子どもたちの「本を読むことが好きで進んで読んでいる」の評価は、80%に向上してきましたが、「ご家庭での読み聞かせや本にふれ合わせている」実現度が2.9と最も低い結果となり、ニーズ度も最も高い分析結果となっております。子ども達の読書力の向上は、学力向上の大きな力の一つとなります。ご家庭でも、お子たちへの読み聞かせをしていただいたり、図書館などの取組と一緒にいったりするなどのご協力・ご支援をお願いします。

また、子ども達の実現度が低かった「ていねいで正しい字を書いている」の項目が、保護者の皆様も課題に感じておられる項目となっております。学校の学習中に丁寧に正しく書くように喚起することは行っていきます。次回の「ノート検定」は1月に実施します。1つの目標にしてください、ご家庭でもがんばりをほめて丁寧に文字を書き続けられる子どもになるよう、ぜひご協力・ご支援をお願いします。

九条弘道

京都市立九条弘道小学校
 学校だより
 平成27年3月2日
 校長 山田小百合
 後期評価号

Tel:671-6981 Fax:691-3458 HP:http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kujokodo-s/

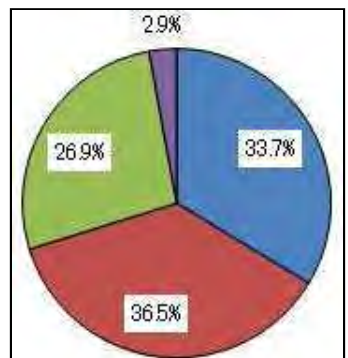
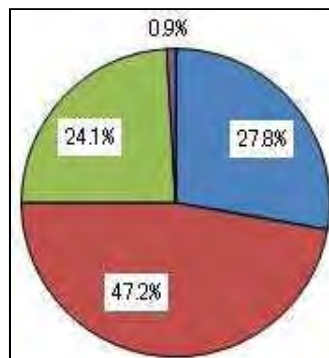
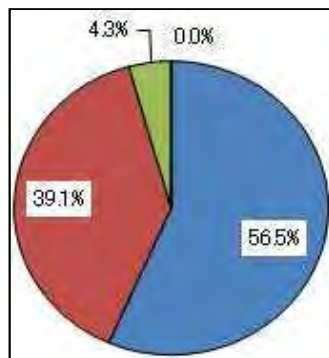
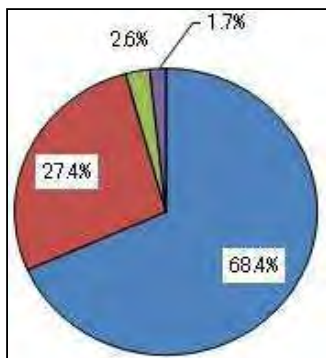
「後期学校評価アンケート」の集計結果をお知らせします。

桃の節句も真近となり、春の気配を感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お喜び申しあげます。平素は学校教育に、保護者の皆様、そして地域の皆様方のご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございます。

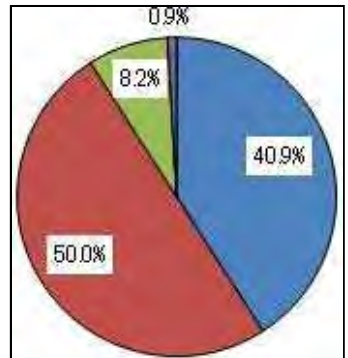
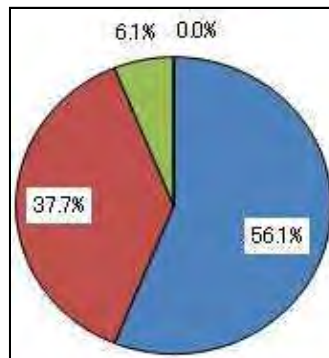
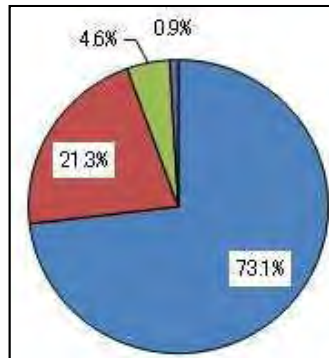
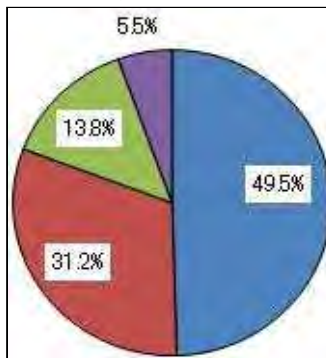
今月実施いたしました「後期学校評価アンケート」に、皆様のご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。ご協力いただいた「後期学校評価アンケート」の集計結果をお知らせします。

子どもアンケート(後期)集計結果について

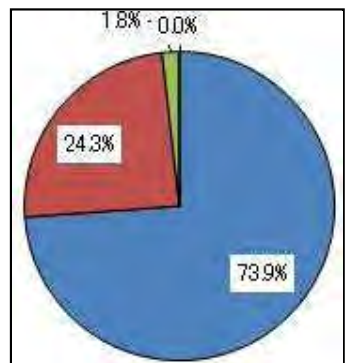
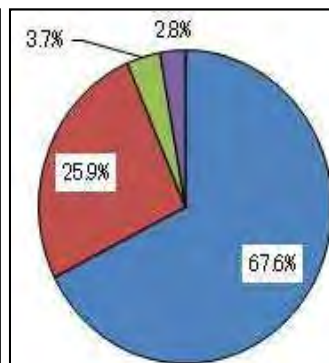
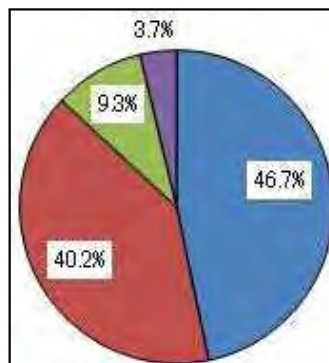
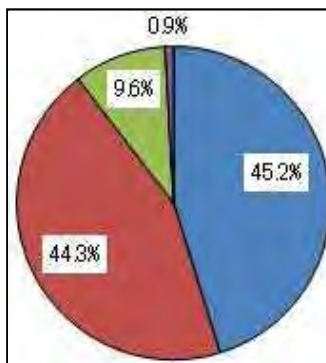
<学校生活が楽しい> <授業はわかりやすく楽しい> <授業中、話を聞く進んで発表する> <文字は丁寧に正しく書いている>



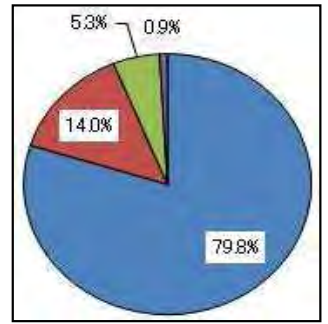
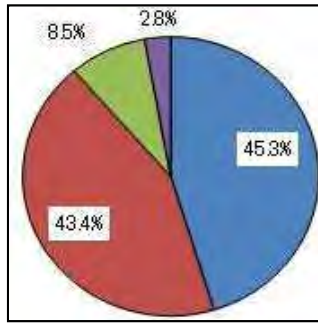
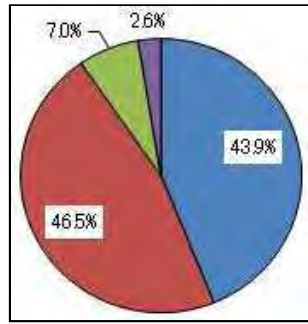
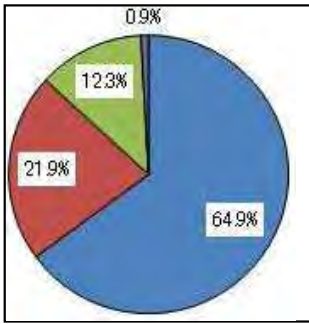
<I like reading and go on to read books> <I get along well with friends at school> <I follow the 'Kujokodo Children's Promise'> <I follow my life rhythm and time>



<I work hard during cleaning time> <I am active in my role at school or in the community> <I am thanked or praised for saying 'thank you'> <I have achieved something I could do after school>



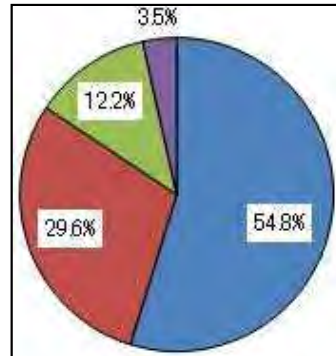
<進んではっきり挨拶している> <人から注意された時に素直に謝る> <早寝・早起き・朝ご飯ができています> <家で15分×学年の学習ができています>



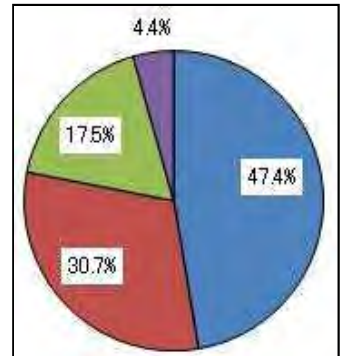
子どもアンケート質問項目

学校生活が、楽しい。
授業は、わかりやすく楽しい。
授業中、しっかり話を聞いたり、進んで発表したりしている。
文字は、いつもいねいで正しく書いている。
本を読むことが好きで、進んで本を読んでいる。
学校の友だちと仲よくできている。
学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を守っている。
予定や時間、生活リズム表などを守って、時計を見て行動ができています。
そうじの時間いっぱいしっかり働き、すみずみまできれいにしている。
クラスの人や他学年の人、学校などの役にたっている。
自分がしたこと、人に「ありがとう」と言ってもらえたり、ほめてもらったりしている。
後期の間に、できるようになったことやがんばっていることがある。
自分からいつも顔を見て、進んではっきりとあいさつをしている。
人から注意された時にすなおに聞いて、あやまることができる。
早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気がつけた生活がいつもできている。
家で、15分×学年以上の学習がいつもできている。
家で、えんぴつをけずるなどの学習準備をして、忘れ物のないように気を付けている。
家で、お手伝いをよくしている。
安全に気がつけた行動ができたり、家で安全について話をしたりしている。
家の人に、学校からのおたよりをわたしたり、学校の話をよくしたりしている。

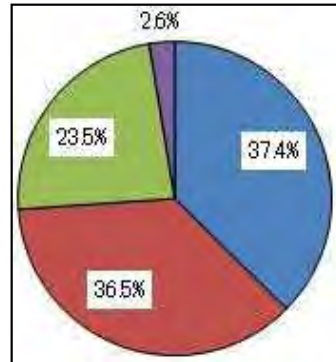
<家で学習準備をして忘れ物の内容にする>



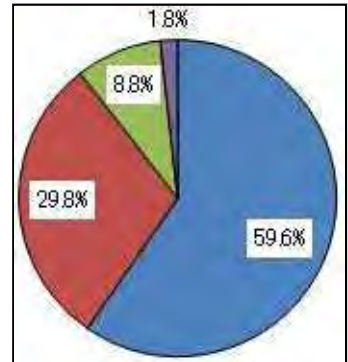
<家でお手伝いをよくしている>



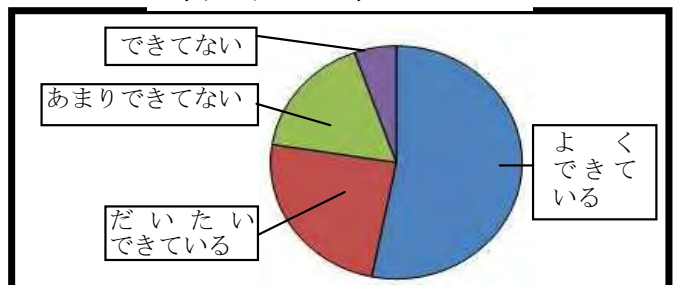
<安全な行動や家で安全の話をしている>



<家で学校の話をよくしている>



<円グラフのみかた>



子ども達は、「学校生活が楽しい」「授業はわかりやすく楽しい」「後期できるようになったことがある」の項目で95%以上の高い評価をしました。特に、「後期できるようになったことがある」は98%以上の高い評価となりました。他にも「友達と仲良くできている」「九条弘道っ子の約束を守っている」「生活リズム表や時間を守る」「『ありがとう』やほめてもらっている」「注意された時、素直に謝る」「家で15分×学年以上の学習ができています」が90%以上の高い評価でした。これは、2月5日の「ふれあいタウン」の学習で、地域や保護者などの大人の人から、アイデアや接客などに対してたくさんほめていただき、また、みんなと協力して“人の役にたった”“喜んでいただけました”という実感を得ることができて、自己有用感や達成感が得られたからだと思います。学校運営協議会の理事会で、『子どもを語る会』での『ほめよう、伸ばそう』を皆さんが実行できたから子どもが大きく伸びた』『ふれあいタウン』では、子ども達の姿が素晴らしかった。成長もよくわかった。』『夢に向かって自分らしく』という素晴らしい学校教育目標をこのような行事で見られることもとても良い」などの感想をいただきました。本校の学校教育目標の実現に向けての取組や学力向上の取組として、保護者の方のご協力と学校運営協議会をはじめとする地域の方のご支援により、子ども達が大きく成長することができたと感じます。皆様方のご協力、ご支援、ありがとうございました。

保護者アンケート(後期)分析結果について

「後期 学校アンケート」に、全員の保護者の方にご協力いただきました。本当にありがとうございました。以下に分析結果を載せさせていただきます。

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
楽しく学校生活が送れるように生活習慣を整えている。	6.7	4.8	21.4
学校の様子を知るために、参観や懇談会などによく参加している。	5.9	4.5	20.7
子どもは授業中、しっかりと話を聞いたり、進んで発表をしたりしている。	6.5	4.1	25.4
子どもは、いつもいねいで正しい字を書いている。	6.5	4	26
家庭では、よく読み聞かせをしたり本にふれ合わせたりしている。	5.9	2.9	30.1
子どもは、学校の友だちと仲よくできている。	6.7	5.7	15.4
学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を守らせている。	6.3	5.2	17.6
子どもは、生活リズム表や予定、時間などを守っている。	6.5	4.3	24.1
学校での取組や様子が、おたよりなどでよくわかる。	6.3	5.2	17.6
PTA行事や地域行事などによく参加している。	5.6	3.7	24.1
子どもがよい行いや努力をした時は必ず褒めている。	6.7	5.3	18.1
子どもの願いや将来の夢などを知っている。	6.3	4.6	21.4
「おはよう」や「おかえり」などの挨拶を大人からしている。	6.6	5.9	13.9
子どもは注意された時、素直に謝ることができる。	6.6	4.2	25.1
いつも早寝、早起き、朝ごはんを守らせている。	6.7	4.7	22.1
子どもが家庭で学習できるように、環境を整えたり、声かけをしたりしている。	6.5	4.8	20.8
子どもは学習準備に必要な物をきちんと保護者に伝え、その準備物を家庭ですばやく準備する。	6.4	4.5	22.4
家庭では子どもに家族の一員として役割を持たせている。	6.4	4.8	20.5
子どもの安全を守るための声かけや話し合い、はたらきかけをしている。	6.6	5.2	18.5
子どもと学校の話をよくするなど関わりを多くもっている。	6.6	5.1	19.1

学校では、子ども達がすすんで読書に親しむような読書習慣の育成を図っております。「子どもを語る会」でも「めざせ！読書好き!!」というテーマでお話をいただきました。子ども達の読書に対する評価は80%以上と前期と変わりませんでしたが、保護者の方のニーズ度は30%と最も高くなりました。子ども達への読み聞かせや、一緒に親子読書をされたり、図書館に行かれたりすることをお子達のために、ご家庭でよろしくお願ひします。子ども達の読書力の向上は学力向上につながります。子どもを今以上に読書好きにするためのご協力をお願いします。

「ていねいな文字を書く」や「素直に謝る」、「話を聞いたり進んで発表したりする」の項目で保護者の皆様が課題を感じておられます。子ども達は、ノート検定の取組などで「ていねいな文字を書く」は70%以上に上昇し、「素直に謝る」は90%以上に上昇しています。

学校では、子ども達は「がんばっている！」という自覚をもって学校生活を送っています。参観や行事でのお子達の様子を見にご来校いただき、ぜひご家庭でもがんばりをほめて、子ども達の良いところやがんばっているところをさらに、伸ばしていただきたいです。

また、「子どもを語る会」での3つめのテーマである「毎日を安全に！」は、ご家庭でたくさん話題にさせていただいたようで、子ども達の評価が約74%、「家で話をする」も約90%と大きく伸びました。このように、ご家庭で様々な危険や安全についての話題にさせていただくことで、子ども達自身も自分がどのように行動しなければいけないかを考えることができると思います。今後も引き続き、よろしくお願ひします。

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立九条弘道小学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 学力向上(基礎基本の定着・読書の習慣化・小中一貫教育の推進) 2. 人権感覚の育成(生きる力・規範意識・自己有用感・豊かな心の育成)
3. 健やかな心と体の育成(生活リズムの定着・命を守る態度の育成)

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート実施結果, その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価		
					評価日	評価者			
1 確かな学力	学力向上・自ら考え、表現し、ともに学び合う子の育成 読書の習慣化 基礎基本の定着 家庭学習の習慣化	・各教科で言語活動を工夫した授業 ・課題を活用して各種読書やチャレンジ学習、土曜チャレンジ学習の実施 ・100冊読書の定着 ・朝読書の定着 ・15分×学年の家庭学習習慣の定着 ・学力補充や補習学習等の取組	・授業中、しっかりと話を聞いてたり進んで発表したりしています ・ジョイントプログラムの結果 ・本を讀むことが好き ・家庭では親子で読んでいる(保護者)がふれあわせている(保護者) ・15分×学年以上家庭で勉強していますか(保護者) ・家庭での学習環境を整えていますか(保護者)	・進んでできている児童は80%、ジョイントプログラム総合(国・算)の正答率が6年で5%上昇 ・「本を讀むことは好き」の児童は20%と低い(保護者) ・15分×学年以上家庭学習している児童の割合は90% ・「学習環境を整えている」児童は83.5%(保護者)	平成26年9月30日	学校評価委員会	自己評価に 対する改善策 ・授業の中で、結論と理由を述べた取組をさらに充実させる。 ・「九条学習プラン」の試行。その際、「書くこと」に特化した言語活動の充実とプランの推進を行っていく。 ・読書を活用し、各読書进行分析し、課題を明確にし、全校一斉の取組を継続して行う。 ・図書部による「ピリオリオトル」の新たな取組で、子どもの読書意欲への向上を図る。		
					人権感覚の育成・生きる力の育成 規範意識の徹底	・人権教育「なかよしの日」(健勝・同和・総育・いじめ防止等)の人権月間、人権啓発懇談(毎回)。 ・学校のきまりと時間厳守、挨拶や当番活動の徹底		・「生活リズムが楽しい」児童の割合は約97%、「友だちと仲よくしている」児童は約98%ができています ・学校のきまりの遵守は約94%、時間厳守は約85%、挨拶は約92%、掃除は約87% ・「夜にたっている」児童の割合は約82%、「あがりかどうやほめてもらっている」児童は約89%	・地域と共に、防犯教育を進めたい。また、学校運営協議会の学校安全委員会の交通安全教育にも協力して参加し、児童が協力を生かして活動していき、このように活動は大切である。 ・地域と共に、防犯教育を進めたい。また、学校運営協議会の学校安全委員会の交通安全教育にも協力して参加し、児童が協力を生かして活動していき、このように活動は大切である。
					豊かな心 協働体験活動を通じた自己有用感・豊かな心の育成	・ピア・サポート活動やキッズボランティアの取組の推進 ・保護者や大人によるほめ言葉		・「生活リズムが楽しい」児童の割合は約83%、「守られている」児童は約89% ・「できています」児童の割合は約64%、実現度は69.3%(保護者)	・「友だちと仲よくでき、学校が楽しい」と感じる児童が97%も活動と協働して行っており、また、「ピア・サポート」や「キッズボランティア」等、学校で通じて、児童に自分の学校が素晴らしいという誇りや誇りという地域に存在している自分の自己有用感を高めているように、長期宿泊自然体験学習に学校運営協議会の活動体験委員会として参加したが、児童が協力を生かして活動していき、このように活動は大切である。
					健やかな体 基本的な生活習慣の確立 命を守る教育の推進 命を守る態度の育成	・生活リズムの定着、「生活リズム表」の遵守 ・いきいき週間の取組 ・命を守る教育の取組 ・遊びや運動・体験活動を通じた心と身体の育成		・「早起き・朝ごはん・規則正しい生活はできています」児童の割合は約89% ・「安全に遊ぶ」児童の割合は約64%、実現度は69.3%(保護者)	・地域と共に、防犯教育を進めたい。また、学校運営協議会の学校安全委員会の交通安全教育にも協力して参加し、児童が協力を生かして活動していき、このように活動は大切である。
4 独自の取組	アンチプレナージュ教育の推進 小中一貫教育の推進 難聴教育の発信	・「ふれあひなつ」の実施 ・「30プロジェクト」の推進 ・自己有用感向上の取組 ・保健科中連携、小中一貫の取組の推進 ・「学習プラン・生活プラン」の試行 ・お話を ・人権啓発懇談会(難聴教育)実施 ・「なかよしの日」(健勝・同和)の人権啓発自主研究発表会	・「できるようになったこと」や「やがやが」が「やがやが」になっているところがある ・「手伝いは約78%」 ・「進んで挨拶できる」児童は約91%、「文字を正しく書く」児童は約69% ・「難聴会」にも参加している児童は約66%と低い	平成26年10月9日	学校関係者評価による意見 ・学校で「自由研究発表会」や「ノーリット」の取組など、地域でできることと「子どもを語る会」で、保護者・地域・学校と共に、語り合う。 ・学習支援や体験活動支援では、学校運営協議会の各委員会で連携し、今以上に充実を図ってほしい。 ・「自己学習のすすめ」を活用している児童が伸びてきている。 ・「自己学習のすすめ」を活用している児童が伸びてきている。 ・「自己学習のすすめ」を活用している児童が伸びてきている。 ・「自己学習のすすめ」を活用している児童が伸びてきている。				
				独自の取組	・「できるようになったこと」や「やがやが」が「やがやが」になっているところがある ・「手伝いは約78%」 ・「進んで挨拶できる」児童は約91%、「文字を正しく書く」児童は約69% ・「難聴会」にも参加している児童は約66%と低い	・「友だちと仲よくでき、学校が楽しい」と感じる児童が97%も活動と協働して行っており、また、「ピア・サポート」や「キッズボランティア」等、学校で通じて、児童に自分の学校が素晴らしいという誇りや誇りという地域に存在している自分の自己有用感を高めているように、長期宿泊自然体験学習に学校運営協議会の活動体験委員会として参加したが、児童が協力を生かして活動していき、このように活動は大切である。			

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立九条弘道小学校)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定		自己評価 平成27年2月19日 学校評価委員会		学校関係者評価 平成27年2月26日 学校運営協議会 学校評議員			
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価 平成27年2月19日 学校評価委員会	学校関係者評価による改善 による意見
1	確かな学力 ・学向上・自ら考え、表現し、ともに学び合う子の育成 ・読書の習慣化 ・基礎基本の定着 ・家庭学習の習慣化 ・学力補充や補習等の取組	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で書写活動を工夫した授業を実施して各種課題を分析 課題に対応した個別学習や学習支援 学習、王座やレクリエーション等の実施 100冊読書の定着 朝読書の定着 15分×学年以上の家庭学習習慣の定着 学力補充や補習学習等の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、しっかりと話を聞いた上で進んで発表したりしていますか 15分×学年以上の家庭で勉強していますか 家庭での学習環境を整えていますか(保護者) 15分×学年以上の家庭で勉強していますか 家庭での学習環境を整えていますか(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> 進んできている児童は80% 朝読書の定着率は90% 15分×学年以上の家庭学習している児童の割合は4% 1人1冊の児童は約40% 1人1冊の児童は約40% 	<ul style="list-style-type: none"> 書写活動を工夫した授業や家庭学習の定着、学力補充や補習学習の取組、組織を活用しての全学年の取組により、ジョイントプログラムの結果や成果がどの学年にも見えてきた。 学校での読書時間の確保がなかなかできず、読書の好きな児童が伸びがなかった。また、家庭での読書がなかなか進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写活動の定着、学力補充や補習学習の取組、組織を活用しての全学年の取組により、ジョイントプログラムの結果や成果がどの学年にも見えてきた。 学校での読書時間の確保がなかなかできず、読書の好きな児童が伸びがなかった。また、家庭での読書がなかなか進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回ノート検査は、質の高いノートに向けて有効な取組である。カンパニオン等の掲示も効果的だが、ピアサポートの観点から児童のノートを確認してよいのではなかろうか。 授業中や行事も児童はよくがんばっている。児童が伸びてきている。自己学習のすべり活用している。学習プランは、今後も家庭訪問や懇談等で活用していく。
2	豊かな心 ・人権感覚の育成・生かせる力の育成 ・規範意識の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育「なかよしの日」(雑談・向和・総合・いじめ防止等) 人権月間、人権啓発講話(毎回) 学校のきまり・予定や時間を守っている、進んで挨拶をしている、掃除の時間しっかり働く ピア・サポート活動やキッズボランティアの取組の推進 保護者や大人によるほめる言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活が楽しいですか 学校の友だちと仲よくできているか 学校のきまり・予定や時間を守っている、進んで挨拶をしている、掃除の時間しっかり働く クラスや他学年の人、学校などの役にたっていますか ありがたやほめてもらっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活が楽しい、友達と仲よく、引き続き高い水準を維持している。 規範意識の徹底で、きまりや時間の遵守が向上。 自己有用感、「ふれあいタウン」の取組の成果で上昇している。 児童生活が楽しい、友達と仲よく、引き続き高い水準を維持している。 規範意識の徹底で、きまりや時間の遵守が向上。 自己有用感、「ふれあいタウン」の取組の成果で上昇している。 児童生活が楽しい、友達と仲よく、引き続き高い水準を維持している。 規範意識の徹底で、きまりや時間の遵守が向上。 自己有用感、「ふれあいタウン」の取組の成果で上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活が楽しいと思えることは基本。これからはもう少し続けられるよう取り組んでほしい。「楽し」の質にこだわりたい。 「ペア学習」や「ピア・サポート」「キッズボランティア」等、学校での様々な取組が効果的である。 長期泊泊自然体験学習に学校運営協議会の活動委員会として参加した。児童が協力して生き生きと活動していた。来年度は、参観だけではないか。 		
3	健やかな体 ・基本的な生活習慣の確立 ・命を守る教育の推進 ・命を守る態度による命を守る態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの定着、「生活リズム表」の遵守 命を守る教育の取組 遊びや運動・体験活動を通して心と身体への育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの定着、朝起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできているか(保護者) 安全に気をつけた行動や家で安全の話をしているか(保護者) 家庭で安全の実行(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> できていない児童は約89% 守れている児童は約89% できていない児童は約73% 実現度は前期と同じ(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域でできる交通安全活動・防犯活動を学校運営協議会の学友安全委員会として実施している。 児童の安全のために子ども110番の確認を年度内に行う。(現在調整中) 		
4	独自の取組 ・アントレプレナーシップ教育の推進 ・小中一貫教育の推進 ・難聴教育の発信	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいタウン」の実施 3Cプロジェクトの推進 自己有用感向上の取組 保幼小中連携、小中連携、小中一貫の取組の推進 「学習プラン」・生活プランの試行 お話し会(難聴教育)実施 難聴教育自主研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 後期に、できるようになったこととやがたがなばっていることがある 家でお手伝いをよくしている 取組後感想アンケート 文字は丁寧に正しく書く 自分から進んで挨拶できる 取組後感想アンケート 「なかよしの日」(保護者) 懇談会に参加(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいタウン」の取組は、地域の参加も多く、九条弘道小の重要な取組となっている。自己有用感の向上に直結する取組である。 小中一貫教育では、学力向上に力をつけるために「九条学習プラン(試行版)」の継続実施。 今後ともさらに連携を深めてほしい。 HPや学校だよりもわかりやすいが学校便りは字が小さすぎる。 			

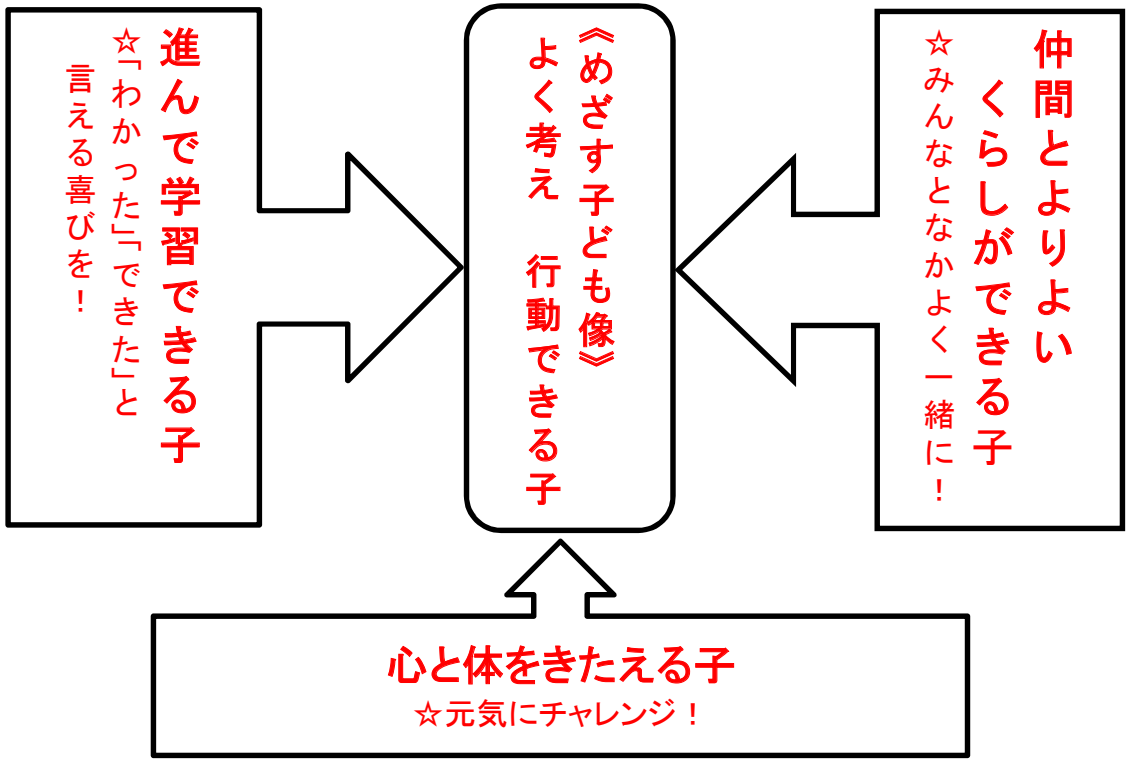
4 総括・次年度の課題

- ・子どもの学習に向く姿勢の向上や自己有用感の向上をさらに深らせていくための取組を充実させる。
- ・小中一貫教育の観点からアンケート項目の統一や社会性実態調査の継続など、評価のための評価にせず、子どもの育成に生かすことのできる評価を行う。
- ・子どもの安心安全については、学校運営協議会で重要な観点ととらえている。関係機関と連携しさらなる充実を目指す。
- ・様々な取組を、学校任せ・地域任せにするのではなく運動・連携をさらに強化していく。

学校評価のねらい ○「保護者・地域の方による学校評価」「児童による評価」「自己評価」を行うことにより、互いに目標に照らして自らを振り返る機会とする。
○互いの課題を謙虚に受け止め、よりよい学校づくり・よりよい家庭教育に生かす。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	<ul style="list-style-type: none"> 教育指導計画の作成 アンケートの内容について小小連携で検討 		<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、HP で学校教育目標・経営方針について発信
	5	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会 (評価の検討) 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート 		
	7	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 個人懇談会 自己評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会 (評価の実施) 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者アンケートの分析 評価結果の分析 後期方針の検討 		
	9			<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、HP で学校評価について発信
	10			
	11			
	12	<ul style="list-style-type: none"> 個人懇談会 保護者アンケート 児童アンケート 自己評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会 (評価の実施) 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者アンケートの分析 評価結果の分析 改善策の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、HP で学校評価について発信
	2			
	年 間	3	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の方針の共通理解 	

心豊かで 自ら求め 学び合う 檜原の子



◎重点課題 友達のキラリを自分のキラリにする。
○キーワード 自分のキラリを探そう！

なかま (生徒支援)	まなび (研究)	こころ (人権教育)
<p>◇ 子どもが主体となって動く学校作り</p> <p>児童委員会活動の活性化・話し合 い委員会・クラスミーティング グランド・テラス活動・ピア サポート・授業づくり・ねえ リアルタイム・S・S・学級 活動の実態把握・いじめ防止対策</p>	<p>◇ どの子にも楽しく学びやすい授業作り</p> <p>授業のユニバーサルデザイン 化算・理科の基礎的・実 力向上・研究・力の充実 ICT活用・漢字検定・学 習能力把握</p>	<p>◇ 一人一人を大切に 学校づくり</p> <p>児童養護施設との連携・同 和・児童教育・男女平等・携 人権教育・健康教育・不登校・児 童研修・総合育成支援・日 L・D・S・C・研究・本語 指導研究・児童研究 見守り施設との連携・児童</p>

教育的愛情を基盤とした支援

学年経営を基盤とした学級経営

檜原小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 「保護者・地域の方による学校評価」「児童による学校評価」「自己評価」を行うことにより、互いに目標に照らして自らを振り返る機会とする。
- 互いの課題を謙虚に受け止め、よりよい学校づくり・よりよい家庭教育に生かす。

2 重点評価項目

- 「確かな学力」の育成に向けて（主体的な学習態度）
- 「豊かな心」の育成に向けて（クラス・全校での協働活動）
- 「健やかな体」の育成に向けて（基本的生活習慣の確立，体力の向上）

3 評価手法

教職員・保護者・児童・地域に対するアンケート調査を実施した。アンケートの調査項目については、小小連携の観点から檜原小学校・松陽小学校で統一した内容とした。アンケート結果の他、全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムの結果、質問項目の内容、朝のあいさつや、授業での態度など、子どもたちの様子についても評価の判断材料として分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、アンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の向上について

「ルールを守っている」という項目に、60%の児童が「よくあてはまる」と答え、32%の児童が「少しあてはまる」と答えている。同じ項目を保護者は、44%が「よくあてはまる」46%が「少しあてはまる」と答えている。子どもの評価の方が高くなっているが、9割の児童がルールを守って生活していることが分かる。

「自分やみんなのものを大切にしている」の項目では、95%の児童が「あてはまる」と答えているが、保護者は79%、「進んであいさつをしている」の項目では、85%の児童の「あてはまる」に対して、保護者は74%であった。子どもは自分ではしているつもりであっても、周囲からはそうは見えていないということが分かる。決められたルールを守るだけでなく、あいさつや乱れている靴をそろえることなど、自分がすることで、周りのみんなが気持ちよく生活できることを自ら進んで行き、楽しい学校生活が送れるようにしたい。そのことが、「学校に安心して楽しく通えている」項目の児童の「あてはまる」（92%）の評価をさらに上げることにつながると考える。

(2) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

教職員のアンケートでは、「分かりやすい授業をこころがけている」の項目に対して、ほぼ全員が「あてはまる」と回答している。児童は92%、保護者は91%が授業は分かりやすいと回答している。校内研究で算数科のユニバーサルデザイン化（視覚的な教材の活用や板書の工夫などを行い、全ての子どもにとってわかりやすい授業に工夫、改善すること）の授業に取り組み、他の教科でも「どの子にも分かりやすく、楽しい授業」を意識して授業を進めてきたことが、この数字に表れていると考える。学習環境のユニバーサルデザイン化によって、児童が授業に集中できるようになった点も見逃すことはできない。

「進んで学習に取り組んでいる」の項目については、児童のアンケートでは7月・1月どちらも結果はほぼ変わらず、83%の児童が「あてはまる」と回答している。「宿題以外の学習に取り組んでいる」の項目は、7月のアンケートの時は29%の児童が「あてはまらない」と回答していたが、1月では25%にとどまった。また、「よくあてはまる」と回答した児童は1月では約50%あり、7月より7%増えている。全校で、わずかな伸びではあるが、自主学習ノート（パワーアップノート）に自主的に取り組む児童が増えていると考えられる。

6年生の全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、「家で計画を立てて勉強している」と回答した児童は「どちらかといえばしている」を含めても59%しかなかった。このことから、宿題に関しては自主的にするが、計画的ではないということが分かった。学習や生活面共に、檜原小学校の児童に多い、決められたことは真面目にするが、それ以上のことを自ら考えて行動することがやや苦手ということが当てはまるように思われる。

5 自己評価

学校評価実施報告書（50，51ページ）を参照

6 学校関係者評価

本校では、自己評価の結果をふまえ、学校運営協議会による学校関係者評価を実施している。

学校関係者評価では、「前回と今回の学校評価アンケートから、現在の学校・保護者の皆様が共に学校を良くしよう、子どもたち一人一人をよく成長させようという強い熱意と意欲を感じました。」「家庭でのしつけは大変評価できます。小学生の時期だけでなく、中学、高校の時期もがんばっていただきたく思います。」のように全般的に高い評価をいただいている。

あいさつについては、「児童館に行く機会があります。出会う児童はしっかりとあいさつしてくれますし、しっかりと自分の意見を言います。」「個々の性格によって言葉が自分から出しにくい子がいるようですが、相手の方からあいさつされた時には100%返答のあいさつができるようになってほしいと願っています。」と二通りの意見をいただいている。

また、「学校運営協議会としての一つの大きな目標を作り、それに向けてそれぞれの部会が取り組むという形にしていくべきである。それが、それぞれの部会の活動の評価にもつながっていく。人間として生きる指針のようなものができると思う。」のように今後の学校運営協議会のあり方についての提案もあった。

7 総括・次年度に向けた課題等

- 互いを尊重し望ましい人間関係を育むため、あいさつや「さん」付けの呼称を徹底させ、さらに、子どもたちの自主的な活動を基盤に、生活規律の定着と熟成を図っていききたい。
- 定着してきた自主学習（パワーアップスタディ）による家庭学習の内容を充実させ、計画的な学習ができるよう支援をしていきたい。互いの考えを伝え合い深めることができるよう、課題解決的な学習、協働的な学習、プレゼンテーション等を取り入れていきたい。

椋原小学校だより



携帯電話でもホームページを閲覧いただけます。左のQRコードをご利用ください。

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/katagihara-s/> (ホームページ更新中です。ご覧下さい。)

学校評価アンケート

今年度7月に児童・保護者・教職員を対象に学校評価アンケートを実施いたしました。今年度から小中連携の取組として、同じ椋原中学校区の松陽小学校とアンケートの内容を揃えて実施しております。この紙面では、保護者の方々のアンケート報告と考察を掲載します。また、裏面にはお寄せいただいたご意見等について(アンケートの裏面)についてお知らせします。

《子どもの様子》

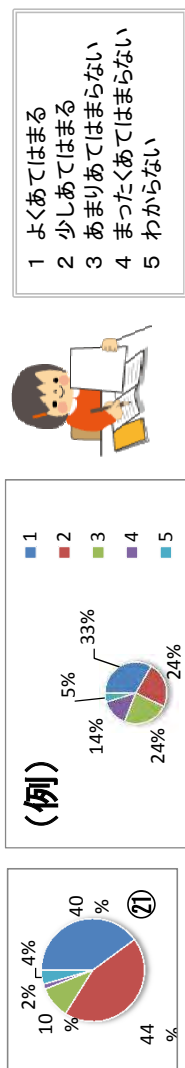
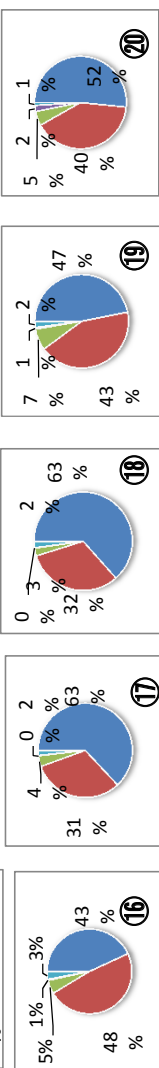
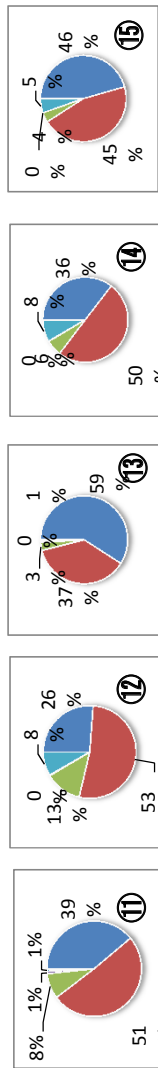
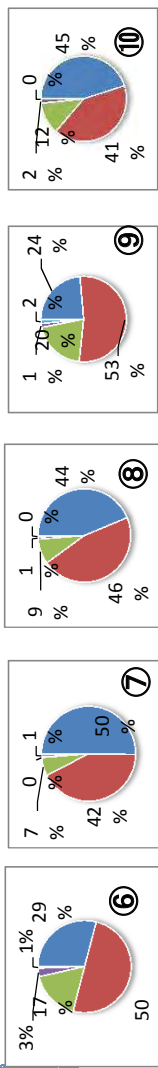
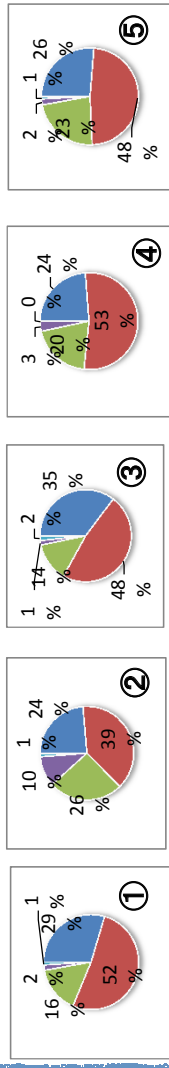
- 1 子どもは進んで学習している。
- 2 子どもは家で宿題以外の学習に取り組んでいる。
- 3 子どもは先生や友だちの話をよく聞いている。
- 4 子どもは自分の考えをしっかりと話している。
- 5 子どもは進んであいさつをしている。
- 6 子どもは自分やみんなのものを大切にしている。
- 7 子どもが思いやりをもち、友だちと仲良く過ごしている。
- 8 子どもはルールを守っている。
- 9 子どもは自分で考えて進んで行動している。
- 10 子どもは早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣がついている。
- 11 子どもは安全に気をつけて、行動している。

《学校の様子》

- 12 学校教育目標「心豊かで自ら求め 学び合う 椋原の子」の実現に努めている。
- 13 子どもは安心して楽しく学校に通っている。
- 14 学校は一人一人の人権を大切にされた教育を進めている。
- 15 分かりやすい授業が行われている。
- 16 学校の環境整備(整理整頓や清掃など)ができています。
- 17 学校・保護者の連携
- 18 ホームページや学校だよりなどで、学校の様子を保護者に伝えている。
- 19 教職員は、来校時、ていねいに応対している。
- 20 保護者が気軽になることがあれば、教職員に気軽に相談している。
- 21 保護者は学校行事(参観・懇談など)に参加しやすいように工夫している。
- 22 子どもは地域行事やPTA行事に参加しやすい。

《学習面》

○ほとんどの児童が進んで学習しているとの回答が多く(①)、学習に対して前向きに頑張っていることが分かります。しかし、自主的な学習(②)に関しては「あまり当てはまらない」も含めると3分の1の児童が宿題以外の学習に取り組めていない実態があるようです。違う見方をすると、3分の2の児童が宿題以外の学習に自主的に取り組んでいるとも言えます。前年度から始めた「自主勉強」の全校での取組を今年度は「パワーアップ学習」と名付けて進めています。自主的に積極的な学習になるように続けて指導していきたいと思えます。ご家庭でも「自主学習」をするように声掛けしている「学習の環境を整えている」と半数以上の回答がありました。中学校に向けて、子ども達が自分のために自分でできる学習になるよう学校でも家庭でもバックアップしていきましょう。



《生活面》

○「ルールを守って行動」(⑧)し、「友だちと仲良く過ごす」(⑦)せている児童が9割近く(⑩)及び、良好な学校生活になっていること分かりました。家庭での「早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣」(⑩)が「あてはまらない」児童が14%にのぼり、「おはよう」と「すんであいさつを」(⑤)することが出来ないことに繋がっているのではないかと想像できます。朝の支度や朝ごはんの時間に余裕が持てるように5分でも早起きするようにしてはいるかがでしょうか。

《学校の様子》

○学校の環境整備や人権を大切にされた教育について、分かりやすい授業への努力など多くの方にご理解いただいている嬉しい限りです。その中でも「学校教育目標」の実現に努めている(⑩)ことが「あまりあてはまらない」や「わからない」という回答が21%あり、学校便りやホームページなどでの発信に更なる努力が必要ないと分かりました。これからも保護者の方の理解を得て、安心して子ども達が通える学校にできるよう職員一層の努力をしていこうと思えます。

学校評価(6月)裏面より

今年度は、裏面では、ご家庭での工夫について書いていただきました。じっくりと考えて書いていただけたようで、たくさん感想や意見をいただくことができました。すべてを紹介することはできませんが、そのうちのいくつかを紹介させていただきます。ここに紹介しているものは、「うまいっつーます」というものもあれば、取り組んでいるものの「なかなかうまくいかないですね」というものもあります。家庭によって考え方の違いもあります。環境によっても違いますし、もちろん、子どもによっても違っています。

○子どもの学力を伸ばす工夫

- ・学習のものが大切で役に立ち、必要なことであるということや、よく話をする。
- ・「学習は特別なことではなく、生活の一部である」と子どもが感じるようにしている。
- ・がんばったことは褒める。
- ・毎日、同じ時間に机に向かうよう言う。時間を決めて学習するよう心掛けている。
- ・一週間の予定表を曜日ごとに作っている。自分のやるべきことがらが自分の中で整理されたようで、今は、その予定表に沿って、自ら学習を進めている。
- ・小さな目標を設定し、できたらシールを貼るなどががんばった成果が目に見えるようにする。
- ・いっしょに学ぶ。
- ・子どもの質問には真剣に答える。
- ・お風呂にひらがな表や九九の表、漢字などを貼る。
- ・旅行に行く時など、地図を見せて旅先を自分で探さるようにしている。
- ・分からない課題でも、まず自分で考え取り組みをした上で、親が助言するようになっている。
- ・うさぐ「勉強しなさい」とは、言わなくなったら、自分から進んで勉強するようになった。
- ・興味のあることには、学ぶ機会を作っている。
- ・自分で勉強する自主性を身に付けてほしいと思いついて、強制はせず子どもと一緒に本屋へ行き、自分でドリルを購入し、自主的に取り組むよう促している。
- ・疑問をもったことは、必ずその場で調べてもらって、納得いくまでさせている。
- ・知識があることで楽しむと思える体験させ、学ぶことは楽しいと思える日常作りをしている。
- ・楽しんで勉強ができるように強制せず見守り、できるだけほめるが学習する環境作りにも努めている。
- ・「話し言葉は聞き言葉」話すこと聞くことから考える力が養われると思う。子どもが、「話したくなる環境」を作ること大事にしている。
- ・宿題やテストなど、「すこいね」ががんばってやるね」と抽象的な言葉で褒めるのではなく、「〇〇のところが丁寧に書けたね」△△のところがお母さんは好きだな」と具体的に分かりやすいく伝えるように意識している。
- ・パワープアップ学習での内容は、子どもの好きなことを聞いて、ヒントを伝えたり遊びに行ったり遊びの中で興味が出たことを題材にしてみたり楽しく学べるようにしている。



○子どもの豊かな心を育てる工夫

- ・できるだけ子どもと話をする時間を大切にす。
- ・家族でいっしょになるべく過ごす。
- ・安易な言葉で終わらせず、しっかり言葉で表現させていき、よく話を聞く。
- ・一人つちなので、時間がある時は、子どもさんがたくさん集まる場所へ連れて行くようにしている。
- ・様々な事件や事故のニュースをいっしょに見た時に、何故こうなったかを話している。
- ・いっしょに出かけた時に困っている人がいれば、手助けする姿を見せる。
- ・家庭での役割の大切さを感ぜさせている。やりたいお手伝いはできる範囲でしてもらっている。
- ・スポーツを通して、いろいろな体験させている。
- ・体験学習に行く。
- ・国語に足を通わせている。多くの本を読む。親子で本を読む。
- ・性別年齢を問わず、たくさんのお出合いや遊んだりする地域やPTAのイベント等に積極的に参加する。
- ・友だちの悪いところを見るのではなく、相手の長所を見分けられるように幼児の時から意識してきた。
- ・友だちの悪口を言うってはいけない。どうして言っていることがあったら、家でわだちこっそり言いたいことをいっていいよと言っている。
- ・例え、自分が「〇〇されたらどうなるだろう」といふ時、どうも言えない。と聞いたら、その立場になって考えさせるようにしている。
- ・子どもが話し出したらどんな意見でもまずは否定せず、なるほどと聞くことにしている。
- ・子どもが自分たちでどうしたらよいか考えさせ、大人が口出ししすぎない。見守ることも大事だと思つて自分も優しくできればよいね、と話し合いを大切にしている。何事にもルールがあり、なぜそのルールが大切なのかを日々考えている。
- ・友だちとトラブルがあれば今度はどうすればよいね、また、友だちに優しくされたことを大切に思い出させている。
- ・自分がしてもらって嬉しかったことを人にたくさんあげてあげよう働きかけている。
- ・ダメなことはダメ！と言っただけでなく、何故ダメなのか納得するまできちんと説明する。
- ・自分より小さい子に困っている人には優しく接する。
- ・命の大切さについてゆくり話ししている。
- ・子どもに愛情を伝えて優しい心をもてる様になっている。



- ・自分一人では生きていけないと話している。
- ・ごみのポイ捨てをしないように、お菓子などを捨てたら必ず持って帰ってくるようにしている。
- ・あいさつを親が率先してしつかりする。
- ・他の人の悪口を大人が言わないようにしている。
- ・親が感動したことを子どもにも伝えるようにしている。
- ・自分の失敗談を話すこともある。
- ・大人が差別的なことを口にしたら悪口を言うたりすることはない。

○子どもの健やかな体を育てる工夫

- ・規則正しい生活を心掛けている。
- ・早寝早起き、朝食の習慣作り。
- ・おかしより三度の食事を大切にしている。
- ・子どもへの体調を風ながら食事の内容を決める。
- ・なるべく手づくりごはん、野菜多め。
- ・好き嫌いをしない。
- ・食べ物好き嫌いが多いため、その食品の役割を教えている。
- ・給食と合わせて、パランスの良い食事になるようにしている。
- ・きらいな食べ物細かくして他の物に混ぜて食べさせている。
- ・いっしょに料理をする。
- ・休みの日は公園などでいっしょに遊ぶ。
- ・外で遊ぶ時間をしっかりと作る。
- ・休日も規則正しい生活リズムを心掛ける。
- ・交通ルールを確認しながら歩く。
- ・自転車に乗る時は、ヘルメットをかぶるようにさせている。
- ・なるべく自動車を使わないで、歩いて目的の場所へ行くことを心掛ける。
- ・車、自転車の怖さや音も聞く機会を設けている。
- ・親の都合で生活サイクルを変えるわけないよにしている。
- ・あいさつや早寝早起き、朝食の意義について話している。

○その他

- ・親だけではなく、近所の大人のことも学んで多くの人と接して多くの人と助け合いたい、親の言うことは素直に聞き入れられない年令となり、そういう時はご近所さんに助けていただけたい、助けて助かっている。
- ・あいさつができること、ありがとう、ごめんなさいが言えるように、周りの全てに対して感謝の気持ちを忘れないことを重視している。
- ・友だちとのやりとりの中で、家では学べない友だちとのやりとりや礼儀のつなごりや礼儀を大切にもらいたいと思つている。
- ・友だち・仲間と協力し、何かを作り上げたり、成し遂げたり、皆で一つの目標に向かってがんばるということを経験させてほしい。
- ・学校ではいろんな人がいて、いろんな思いがあつて、いろんな行動があつて、みんながちがうことを思つたりするので、たたくさん経験して、その中で自分の中のふれない部分、大切にしたい部分を考えよう行動できるように少しずつ、たたくさんのことを感じて学んでくれたらなと思う。
- ・大人に注意や叱られた時、自分が悪かつたことをまず謝るのではなく、言い訳や罪を軽くし、相手もやっている他の子のことをばかり言う子が増えていると感じる。まずは、自分の悪かつたことを素直に謝れるような指導を学校でもしてほしい。
- ・松鷹か、程原中との連携を深め、地域で一貫した教育体制をとっていただければ、安心して地域の中学に進学させることができると思う。
- ・人に優しくできたり、人によって態度が変わったりしないように強い心をもつてほしいと思う。
- ・子どもへの教育に関しては、学校にお任せするばかりでなく、やはり、家庭において子どもとの関わり、親の行動、家族関係、家庭環境などが非常に重要であると思うので、親が学校の教育方針を理解し、それを家庭でも実践できるように心掛けていきたいと考えている。
- ・大人になった時に、生き抜いていく力、自立できるように目標に日々考えて教育している。
- ・自主学習が果たして子どもの学習向上につながっているのか疑問である。漢字プリントや計算プリントを増やし、基礎学力を定着させてほしい。
- ・子どもを取り巻く環境は、自分が子どもの頃より複雑化したり危険化したりするので、常にアンテナをはりめぐらせ、手は離しても目は離さずいていなければならない。
- ・親が未だにまだついででも口を出してしまうので、そこを本人がしつかりと考えると行動を起こしてくれる様に促していかなければと思う。これから子ども自立していけるように。

程原小学校では、上の図のように、6年をかけて、子どもを育てていこうとしています。そこで、学年に応じた指導をしています。学年においても、6年間学習する時間、内容、意欲等を高め、中学校へつなげたいと考えています。保護者や地域の方々の思いや考えも参考にさせていただきます。今後教職員一同子どもの成長に携わっていきまので、ご協力よろしくお願いいたします。

程原小学校 ステップアップ表		
かっこいい程原の中学生になろう！		
基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！
基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！
基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！
基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！	基礎学習 基礎的な知識・技能を身に付け、学習の土台を固めよう！ 漢字の読み書き、算数の基礎計算、英語の基礎文法を身につけよう！



携帯電話でもホームページをご覧いただけます。左のQRコードをご利用ください。

http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/katagihara-s/ (ホームページ更新中です。ご覧下さい。)

実りの秋



秋は、稲も野菜も実る季節です。田んぼでは、稲刈りが終わっているところも見られ、これから刈る田も黄金色の穂に彼岸花の赤が美しく映えています。豊作を祝うお祭りは、地域の方々の願いがこめられているのでしよう。この機会に子ども達にも是非、季節や地域の風習や文化にふれてほしいものです。

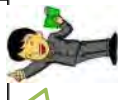
さて、学校では10月10日(金)が、前期の終業式です。4月に始まった新しい学年で、たくさん行事や学習を積み重ねてきました。前期を振り返り見てみるとどんな成果があったのでしょうか。今までを振り返るよいチャンスです。学習や生活でよかったところやもう少しだったところを確かめて、これから頑張ることを見つけてほしいです。

通知票

今年度から、通知票渡しに変更があります。前期・後期ごとにそれぞれ1枚ずつパソコンで印字したものをお渡しすることになります。以前のようにお返却していただくことはありませんので、よろしくお願ひいたします。また、後期は以前のように、前期の内容に付け加えた形でお渡しすることになりますので、ご家庭では、後期分のみ毎年保管していただければよいかと思っております。

通知票は、10月10日(金)に封筒に入れて持ち帰りますので、手元に置いてゆくりご覧ください。
また、通知票と同じ封筒に「けんこうのきらく」も入れてお渡しますが、「けんこうのきらく」は、6年間続けて使いますので、押印して封筒に入れ返却してください。

前期の終業式は、10月10日(金)です。おうちのひとといっしょに通知票を見て、後期の目標を立てよう！



10月の行事予定



日	曜日	行事	備考
1	水	6年演劇鑑賞 DO YOU KYOTO? 午後木曜校時	保健行事・地域の予定等
2	木	運動会予備日 午後水曜校時	フッ化物洗口
3	金	山の家健康相談日(希望者)	
4	土		
5	日		
6	月	社会見学6年(奈良方面)	
7	火	委員会活動 3年お店見学 4年京都サンガアカデミーS	視力検査6・5年 再検尿 視力検査4・3年 学校保健委員会(1・4時~)
8	水	かしのみ学級ふれあい学習 ALT5年	視力検査2・1年 フッ化物洗口
9	木	なかよしの日 ALT6年	視力検査かしのみ学級
10	金	前期終業式 ベルマーク回収日	
11	土	全市区活動パレードボール交流会	
12	日	学区民体育祭	
13	月	体育の日	
14	火	後期始業式	
15	水	選書会 学校安全日 アルミ缶回収日 DO YOU KYOTO?	歯科検診(2・4・6年・かしのみ)
16	木	選書会 校内研究会(かしのみ学級) ALT5年	フッ化物洗口
17	金	4年エコーライフチャレンジ ALT6年	
18	土		
19	日		
20	月	選書会 5年「花背山の家野外活動」(23日まで) 6年ふれあい学習(1組)	
21	火	選書会 6年ふれあい学習(2組)	
22	水	選書会 6年ふれあい学習(3組)	
23	木		
24	金	2年お店たんけん ALT6年 6年ふれあい学習(4組)	
25	土		
26	日		
27	月	社会見学3年(ビール工場他)	
28	火	京都検定5・6年	
29	水	西京東支部育成学級合同運動会(嵐山東小で)	歯科検診(1・3・5年)
30	木	人権参観懇談会(2・3・5年) 体操服販売(15:30~)	フッ化物洗口
31	金	人権参観懇談会(1・4・6年・かしのみ学級) 体操服販売(15:30~)	
<p>11月の おもな行事</p> <p>12日(水)大文字駅伝予選会(6年) 15日(土)音楽フェスティバル・土曜参観 18日(火)~28日(金)もみじ読書週間</p>			



今学校で

9月14日(日)には、「敬老会」が体育館で盛大に行われました。小学校からは、「和太鼓」(クラブ)「京炎ふりそで」(4年踊り)の演目を披露し、地域の方々との交流を深めました。また、1年生は、お年寄りへの気持ちを作文して読みました。子ども達のやさしい気持ちが伝わった温かいひと時でした。どうぞ、みなさんいっつもでもお元気で!



夏休みの作品展

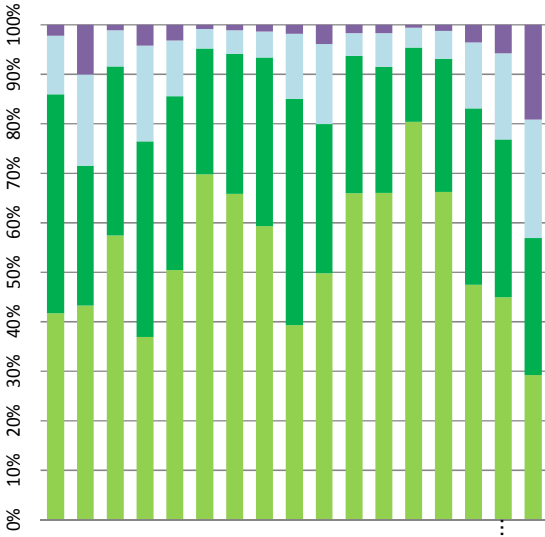


松陽小学校のようす

<教まつり「子どももこし」作り>
PTA主催の秋まつりの「子どももこし」を新しく作ることにになり、制作が始まりました。全校で集めたペットボトルのキャップを、休み時間を使ってクラスごとにペタペタ貼っていきます。出来上がりが楽しみです。



第1回(7月実施)児童アンケート結果



- 1 進んで学習に取り組んでいる。
- 2 家で宿題以外の学習に取り組んでいる。
- 3 先生や友だちの話をよく聞いている。
- 4 自分の考えをしっかりと話している。
- 5 進んであいさつをしている。
- 6 自分やみんなのものを大切にしている。
- 7 思いやりをもち、友達と仲良く過ごしている。
- 8 ルールを守っている。
- 9 自分で考えて進んで行動している。
- 10 早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣がついている。
- 11 安全に気をつけ、行動している。
- 12 学校に安心して楽しく通えている。
- 13 先生はいじめのない学級を作ろうとしている。
- 14 先生は分かりやすい授業をしている。
- 15 身のまわりの整理整頓と心を心がけている。
- 16 気になることがあれば、気軽に担任の先生に相談できる。
- 17 地域行事やPTA行事に進んで参加している。

■ 4 よくあてはまる ■ 3 少しあてはまる ■ 2 あまりあてはまらない ■ 1 まったくあてはまらない

7月に実施した児童アンケートの結果です。

- ◆「進んで学習に取り組んでいる」の項目は、86%の児童が「あてはまる」とは回答していますが、「宿題以外の学習に取り組んでいる」の項目では、29%の児童が「あてはまらない」と回答しています。自信を持って、「よくあてはまる」と回答している児童は50%を切っています。このことから、与えられた宿題は、さっとしているが、それ以上の学習はまだまだ不十分であることが考えられます。松陽小学校では、「パワーアップスタディ」という名称で、内容をそれぞれが考えた学習を宿題として出しています。自ら学ぶ力を小学校の6年間で児童が身につけられるよう、学年に応じて1週間でする回数も決めて出しています。この学習が宿題としてではなく、自分で必要性を感じ、できるようにすれば、さらに内容も深まり、学力アップにつながると考えています。
- ◆「自分の考えをしっかりと話している」の項目は、「あてはまる」の割合が80%に達していません。学習においても、生活においても、自分の考えを話すということは、とても大切なことです。この話す力を育てるために、本校では、クラスミーティングや学級活動の時間を確保し、授業だけでなく朝の会や帰りの会などでも、話す機会を多く設けるようにしています。また、児童が「話したい」「伝えたい」と思うように、心を耕していきたいと考えています。
- ◆「自分で考えて進んで行動している」の項目の割合は、「あてはまる」の割合が85%でした。85%もの児童ががんばっているとも言えますが、そのがんばりを児童や大人が評価していくことで、その数字を上げていきたいと考えています。
- ◆「先生はいじめのない学級を作ろうとしている」93%の児童が、そのように感じています。道徳の時間だけでなく、普段のいかなる時でも「いじめは許さない」という姿勢を教師はもっています。学校、保護者、地域が連携して同じ姿勢で子どもに接していくことが必要だと考えています。
- ◆「気分になることがあれば、気軽に担任の先生に相談できる」の項目は、20%以上の児童が気軽に相談できていないことが伺えます。今年度は、教育相談週間を設け、担任が一人一人の児童と顔を向き合わせて話をしました。話しかけることが苦手な児童に対しても、教師の側から積極的アプローチし、信頼関係を築いていく努力を続けます。

京都市立椋原小学校 平成26年度冬休み号

椋原小学校だより

平成26年12月19日
京都市立椋原小学校
校長 北村朋彦



http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kstgsharu/ (ホームページ更新中です。ご留意下さい。)

楽しい冬休み



冬休みがやってきました。冬休みは、クリスマスやお正月など子ども達が心待ちにしている家庭行事も多いことでしょう。家庭で過ごす時間が多いこの機会に、家族との団らんやお出かけなど楽しみにしていることと思います。

そんな楽しい冬休みですが、長い休みの間子ども達は、どんな生活をしているでしょうか。低学年の間は、おうちで過ごす子ども学童などで過ごす子どもも大人の目が行き届き、安全で規則正しい生活を送ることが出来ます。中学年や高学年の子ども達はどのようにして楽しい冬休みを送っていますか。自由に行ったり、自由に公園に行ったり行動範囲も広がり、活動的になって嬉しいものですが、反対にどんな友達関係でどんなことをして遊んでいるのかだんだん見えにくくなってくることがあります。

保護者の方とのお話の中で、家庭でお子様とよく話すと言われるご家庭は、お子様の友達や今どんな遊びが好きなのかよく知っておられることが分かりました。また、興味を持っていることにも敏感で、一緒に習い事を選んだり、地域のスポーツに参加したりすることに協力してもらえるようです。

冬休みはお子様と話す機会を多く持つてほしいなあと思います。家庭の団らんの中で学校でのことや友達とした遊びのことも話してくれることでしょうか。ぜひ会話の多い冬休みにしてください。



パワーアップノート

～自主的な学習態度を育てるために～

学校での宿題は、漢字や計算など繰り返しの必要な課題が多いですが、自主学習として「パワーアップノート」を使って学習を進めています。自主的に学習をして予習・復習やテスト勉強をしていく取り組み方に変わっていきいます。中学校になるまでに小学校でも自主的に学習できるような学年に応じた時間を課題としています。



↑ 4年生
「ヒマワリのかんざし」
「分度器の使い方のおさらい」

↓ 6年生「歴史上の人物時間図」



学校評価アンケート（地域の方より）

学校運営協議会の皆様へ学校評価をいただきましたので、紙面でお知らせします。協力いただいた協議会の方々ありがとうございました。文章は一部簡略化して載せております。



1 学校評価について(児童・保護者アンケート考察)のご意見

○工夫や分析の改善案

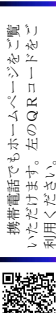
- ①学年ごと(児童の発達段階)にまとめる。
- ②1/3の児童が宿題以外の学習に取り組めていないことについて児童の意識を追求、分析する。
- 自由記述欄に多くの保護者が、学習面のみでなく、心と体を育てることに心を配り、ご家庭で努力実践されていることがよく分かった。
- 学習面での「パワーアップ学習」の取組や学校における「クラスミーティング」の取組など子ども達の自主性を育む取組がなされていると感じる。
- ほとんどの子ができていても、できていない子どももできるような底上げが大事だ。
- あまり遊んでいない子がいるのが心配。
- 挨拶について。朝の見守りから、「進んで挨拶をしている」は、円グラフ⑤よりもっと下回ると感じている。また、社会に出れば礼儀作法は大切。大人には「おはようございます」と言わせるべき。
- 評価を読んで、向学心、協調性、礼儀作法、社会性全ての面で格段の進歩を感じる。学校の努力が分かる。学校に安心して通い、ルールを守りいじめのない環境作りをしてもらえる。
- 地域の行事等にももっと参加してほしい。自治会への加入が減っているのも気になる。

2 その他、お気付きのこと

- 進んで挨拶している児童が85%で確かに以前よりは挨拶できるようになっているが、一部に挨拶できない子がいて、朝食を食べたかど気になる。
- 窓やミーティングルームの戸締りができていないことがあり、気になる。徹底を願いたい。
- 学校には期待と要求がある。先生方との連携と協働ももちろんのこと、地域も協力していきたい。
- 家庭でも子ども達の話に耳を傾け、自信を持って日常生活を送れるようにならなければならない。
- 国歌斉唱、国旗掲揚を他の行事にもしてほしい。

貴重なご意見をありがとうございました。今後学校教育に活かしていきたいと思っております。また、「学校便り」が小さく読みにくい」とのご意見があり、今回から字の大きさや行間などを工夫しました。後期もアンケートを実施します。どうぞよろしくお願いたします。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で「子どもと共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！
京都市はくくみ憲章



携帯電話でもホームページをご覧いただけます。左のQRコードをご利用ください。

http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/katagihara-s/ (ホームページ更新中です。)

学校評価アンケート

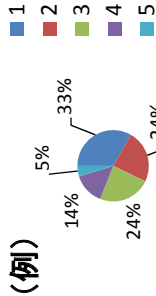
学校評価アンケート第2回目を12月に実施いたしました。ご協力大変ありがとうございました。ご協力大変ありました。7月実施分と同様に小中連携の取組として、同じ椋原中学校区の松陽小学校とアンケートの内容を揃えて実施しております。この紙面では、保護者の方々のアンケート報告と考察をします。

質問項目の一覧

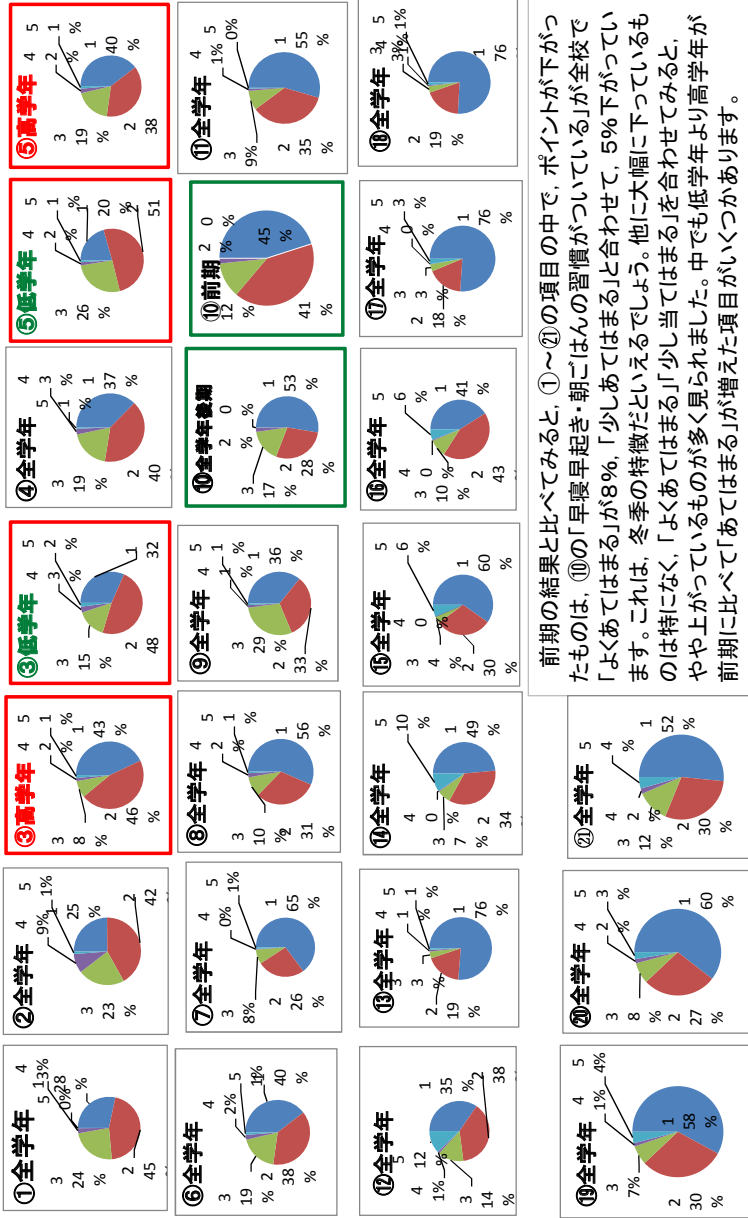
- 《子どもの様子》
- 1 子どもは進んで学習している。
 - 2 子どもは家で宿題以外の学習に取り組んでいる。
 - 3 子どもは先生や友だちの話をよく聞いている。
 - 4 子どもは自分の考えをしっかりと話している。
 - 5 子どもは進んであいさつをしている。
 - 6 子どもは自分やみんなのものを大切にしている。
 - 7 子どもが思いやりをもち、友だちと仲良く過ごしている。
 - 8 子どもはルールを守っている。
 - 9 子どもは自分で考えて進んで行動している。
 - 10 子どもは早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣がついている。
 - 11 子どもは安全に気をつけ、行動している。

- 《学校の様子》
- 12 学校教育目標「心豊かで自ら求め 学び合う 椋原の子」の実現に努めている。
 - 13 子どもは安心して楽しく学校に通っている。
 - 14 学校は一人一人の人權を大切にしている。
 - 15 分かりやすい授業が行われている。
 - 16 学校の環境整備(整理整頓や清掃など)ができています。
- 《学校・保護者の連携》
- 17 ホームページや学校だよりなどで、学校の様子を保護者に伝えている。
 - 18 教職員は、来校時、ていねいに応対している。
 - 19 保護者が気軽になることがあれば、教職員に気軽に相談している。
 - 20 保護者は学校行事(参観、懇談など)に参加しやすいよう工夫している。
 - 21 子どもは地域行事やPTA行事に参加しやすい。

項目ごとの割合



- 1 よくあてはまる 2 少しあてはまる
 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない
 5 わからない



前期の結果と比べてみると、①～⑪の項目の中で、ポイントが下がったものは、⑩の「早寝早起き・朝ごはんの習慣がついている」が全校で「よくあてはまる」が8%、「少しあてはまる」と合わせて、5%下がっています。これは、冬季の特徴だといえるでしょう。他に大幅に下がっているのは特になく、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせてみると、やや上がっているものも多く見られました。中でも低学年より高学年が前期に比べて「あてはまる」が増えた項目がいくつかあります。

高学年だけに目を向けると、③「子どもは先生や友だちの話をよく聞いている」が前期の83%から90%に、④「しっかり話す」は、77%から84%へと大幅に増えました。⑤「進んであいさつする」は、高学年の78%が「あてはまる」に比べ、低学年は71%だけにどまりました。

高学年は21項目中、11項目に良い傾向が見られ、「あてはまる」が減ったのは2項目で、低学年は5項目がわずかに減り、2項目の「あてはまる」が増えています。このことから、高学年の後期に良好な回答が多く見られたといえます。(特徴的な項目は、低学年、高学年の別に円グラフで表しました。)

学校の設備や相談しやすいかなど(⑩⑪)については、前期とほぼ同じく80%の方が「あてはまる」という回答でしたが、12%～18%の方が「あてはまらない」との回答でしたので、設備や相談しやすさに課題があると言えます。ホームページや学校便りで「学校の様子を保護者に伝えているか」については、94%の方が「あてはまる」との回答でした。

また、家庭で気を付けている事の中で多かったのは、「おはよう」「いただきます」などの挨拶、社会のルールを守るようにしている、家族の会話を大切にしている、子どもの話をしっかり聞いているなどの項目でした。家庭でのしつけに多くの人が気を付けておられることが分かります。家庭学習や自主学習などについては、全学年で取り組んでいる「パワーアップノート」を児童が自主的に進められるようこれからも学校ですすめていきたいと思っております。



松陽小学校のようす(小中連携)

持久走記録会
 天皇の杜古墳を舞台に持久走記録会を開催しました。子どもたち一人ひとりがあてめをもって、長い距離を走り切りました。とても寒い日で、走り終わった後も吐く息は白く、疲れもありましたが、みんなの表情はとても

学校評価(12月)アンケート裏面より

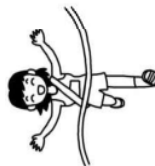
裏面にの「ご家庭での工夫」について、たくさん書いていただきありがとうございます。また、いくつかご紹介いたします。みなさんのご意見を学校教育にも活かしていきたいです。

○子どもの学力を伸ばす工夫

- ・帰宅後はまず宿題を終わらせてから遊ぶ約束をしている。
- ・宿題の時間にはテレビを消し、集中しやすい環境を作る。
- ・図書館で定期的に本を借り、読みやすいようにリビングにおいている。
- ・宿題をする時刻を決めて、習慣づけている。
- ・宿題やテストを間違った時が自主勉強のチャンス。間違いを直して、できるようにするまで繰り返しおさらいする。
- ・初めて出会う語彙が出てきたら、自分で辞書を引くよう声をかける。
- ・科学館など体験学習になるべく多く行くようにしている。
- ・ゲームをするのは週末だけにしている。
- ・学習机を1階に置いている。
- ・子どもが学習について聞いてきたとき、なるべく詳しく話を聞いて共感したり、深くなづいたりしている。
- ・入学時より朝、学習の習慣がつくようになってきた。学校の進度より少し早目に学習している。

○子どもの豊かな心を育てる工夫

- ・悪いことをしたときは悪いと注意する。良いことをしたときはほめるようにしている。
- ・自分がされて嫌なことは友達も嫌だということを常に話している。
- ・他人の批判は絶対に言わないようにしている。
- ・食事の時は家族で楽しく話している。
- ・テレビとゲームは時間を決めてい



祝！大文字駅伝大会3位

2月8日(日)に、大文字駅伝大会が都大路で行われました。結果は、堂々の3位でした。選手たちはよく練習に励みました。粘り強さとチームワークの勝利です。応援して下さい。保護者の方、地域の方がりがどうございました。(写真は表彰式の様子)



子どもと共に育む京都市民憲章

- わたしたちは、
- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
 - 1 子どもから信頼され、信頼となる行動に努めます。
 - 1 子どもを尊重し喜びを感じ、誰も落ち学べない環境を作ります。
 - 1 子どもが怒らなくても、家庭の生活習慣と家庭の絆を大切にします。
 - 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
 - 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日(厚労省認可)京都府の府認定
3月13日 京都市高が憲章制定を改定

- ・学校外での友だちとの付き合いも大事にしている。その中で色々な価値観をまなぶ。
- ・相手への思いやりに欠ける言動については冗談でもいけないと厳しく注意する。
- ・畑で収穫した野菜をお料理して家族で楽しく食べたりすることを多くしている。
- ・自宅に友だちを招いて友だちと過ごす時間をできるだけ多く作る。(我が家ではゲームの持込は禁止)
- ・ゲームやテレビより読書や工作、お絵かきなどの創造性を育む遊びを大切にしている。腐材を多く置いておく、生き物を育てる。
- ・夜9時までにはふとん入るようになっている。

○子どもの健やかな体を育てる工夫について

- ・食事は基本的に手作りをする。朝食をしっかり食べさせる。
- ・質のよい睡眠のために、休み時間や放課後は外で元気に遊ぶようにすすめている。
- ・お菓子はあまり食べさせず、お腹がすいたらなるべくご飯を食べるようにすすめている。
- ・和食中心の食事になっている。塩分などに気を付け、薄味にしている。
- ・ジャンクフードをあまり食べさせないようにしている。一汁三菜の食生活にする。



○その他

- ・高校生や大学生のお兄さんとの交流は将来の夢や勉強面での刺激になると思うので、そんな機会を持ってほしい。
- ・どんな時でも挨拶がしつかりできるように心がけている。「ありがとう」や「ごめんなさい」の気持ちを持ってほしい。
- ・宿題が多すぎずと思う。「子どもらしく」過ごす時間が少なくなるので、減らしたほうがよいのではないかな。
- ・子どもの教育には、学校と家庭の両方の協力が不可欠だ。家庭でもしっかり教育し、学校にたくせするようにしたい。
- ・楽しく学校生活を送っているのですね。
- ・「友だちを大事にする」「嘘をつかない」「約束を守る」この3つを守っていたらそれでいい。
- ・家庭で叱る時も愛情が根底にあつたらよいと思う。厳しく叱る時も愛情を忘れずに。
- ・たくさん褒める。伸びようと努力しているのだから褒めたい。伸びようとしている翼を折らない。
- ・いそがしい毎日だが、子どもと過ごす時間を大切にしたい。
- ・毎日充実して帰宅するわが子を見て嬉しい気持ちで一杯です。先生方への感謝の気持ちで一杯です。
- ・子ども達が安心して楽しく学校に通えるように「いじめ」がおきない学校づくりをしてほしい。

平成27年度 おもな行事予定

- 4月 8日(水) 着任式・始業式・入学式
- 5月14日(木) ~15日(金) 6年修学旅行
- 6月29日(月) ~7月11日(水) 4年みさきの家
- 7月24日(金) 前期前半授業終了
- 7月25日(土) ~8月24日(月) 夏季休業
- 8月25日(火) 前期後半授業開始
- 9月12日(土) 運動会
- 10月 6日(火) ~9日(金) 5年山の家
- 10月 9日(金) 前期終業式
- 10月13日(火) 後期始業式
- 10月31日(土) 土曜参観・音楽フェスティバル
- 12月22日(火) 後期前半授業終了
- 12月24日(木) ~1月7日(木) 冬季休業
- 1月 8日(金) 後期後半授業開始
- 3月23日(水) 卒業証書授与式

椋原小学校だより

平成27年3月19日 校長 北村朋彦

携帯電話でもホームページをご覧いただけます。左のQRコードをご利用ください。



<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/katagihara-s/> (ホームページ更新中です。)

春休みが始まります！

いよいよ今年度も修了を迎えました。子ども達はこの1年にどんな成長をしたでしょう。また、どんなことをがんばったでしょうか。部活動をやり遂げた子、宿題など家庭学習に進んで取り組んだ子、忘れ物がないように気を付けた子、友だちと仲良く遊べた子など成果はそれぞれだったことでしょう。何にしても「**継続は力なり**」と言います。何かを続けてがんばることが大切です。お子様の1年間を振り返り、続けてきたことをどうぞほめてあげてください。さて、4月から新年度が始まります。今年1年を振り返りお子達の良い面を認め、新たな「継続」をお子達と見つける楽しい春休みにしてほしいと思います。

また、春休みは気候もよくなり、子ども達の活動も活発になります。宿題がない学年が多いので、子ども達のとってはとても嬉しい長期休業です。外に出る機会も多いことでしょう。遊びに行く時は、「どこに」「何をしに」「だれと」行くのか伝えてから家を出るようになさせましょう。また、自転車や道路の渡り方など交通マナーに留意して過ごしてほしいものです。



<年度末・年度初めの予定>

- 3月30日(月) 離任式(午前9時～) 持ち物・・・体育館シューズ
- *新6年生は、式後に机運びのお手伝いをお願いします。
- 4月 7日(火) 新6年生登校日(午前9時～)持ち物・・・上くつ
- 4月 8日(水) 着任式(午前9時～)・始業式 持ち物・・・体育館シューズ
- 入学式 (午前10時半～) *新6年生と新2年生の数人が出席

学校運営協議会の方の学校評価アンケートより

学校運営委員会の方に後期の学校評価アンケートに回答いただきました。貴重なご意見をいただきましたありがとうございます。紙面にて紹介し、交流させていただきます。

〇学校評価について

- ・前回と今回の「学校評価アンケート」から現在の学校保護者の皆さまがともに椋原小学校を良くしよう、子ども達一人一人をよりよ成長させようという強い熱意と意欲を感じました。
- ・学校運営協議会としての一つの大きな目標を作りそれに向けてそれぞれの部会が取り組むという形にしていくなかである。それがそれぞれの部会の活動の評価にもつながっていく。人間として生きる指針のよなものが出てくると思う。
- ・家庭でのしつけは大変評価できます。小学生の時期だけでなく、中学、高校の時期も頑張っていたと思います。
- ・多くの課題に取り組んでおられる先生方には敬意を表します。これからはがんばってください。
- ・児童館に行く機会があり、出会う児童はしっかりとあいさつしてくれますし、しっかりと自分の意見も言います。

〇その他お気づきのこと

- ・あいさつの件ですが、個々の性格によって言葉が自分から出しにくい子がいるようですが、相手の方からあいさつされた時には100%返答の挨拶が出来るようになってほしいと思います。
- ・大文字駅伝大会で優勝を含め、今年は3位という連続上位の成績でした。熱心に指導される先生方の姿をよく見かけますので、当然の結果です。頑張ってください。

大なわとび大会



2月23日(月)より、中間休みに1年生から6年生まで1学年ずつ大なわとび大会を行いました。体育委員会の主催で児童がルールを決め、賞状も児童の手によって作られます。かしのみ学級も跳んだ数だけ交流クラスに付け足されるので、大いになわとびを楽しんでいました。

今年の6年生は、なんと1位が5分間で、2チーム合わせて1100回を超え、4位のクラスでも925回という甲乙つけがたい素晴らしい結果でした。

お願い

毎日の掃除で、机や壁拭き、床拭きなどで使う雑巾が不足しています。おうちにある古タオルなどで作った雑巾を寄付していただければ幸いです。DO YOU KYOTO?の日(毎月16日)の朝に箱を用意しています。ほかの日でも職員室でお預かりしますので、どうぞよろしくお願ひします。



学校評価アンケート(児童)

学校での生活等について児童と教職員対象に第2回のアンケートを実施しました。アンケートの結果報告と考察をします。

今回は、低学年(1・2・3年)と高学年(4・5・6年)の二つに分けて集計しましたが、右下のグラフのようにどちらもほぼ同様な傾向でした。教職員のアンケートの中で、児童に関する項目を1から11まで右に挙げました。中でも「進んであいさつしているか」については、「当てはまらない」と答えた職員が多く、本校での今後の課題としてとらえている職員が多いです。児童ができていくかについて評価することが大切だという意見がほとんどでした。



質問の一覧

1	進んで勉強している。
2	家で宿題以外の勉強をよくしている。
3	先生や友だちの話を聞いている。
4	自分の考えをしっかりと話している。
5	自分からあいさつしている。
6	自分やみんなのものを大切にしている。
7	友だちにやさしくし、なかよく遊んでいる。
8	やくそくやルールを守っている。
9	自分で考えて、自分から行動している。
10	早ね・早起きをし、朝ごはんをきちんと食べている。
11	安全に気をつけて、行動できている。
12	学校に安心してかよえている。
13	先生は みんなが楽しいと思える楽しい授業を作ろうとしている。
14	じゆぎょうは、分かります。
15	身のまわりをきちんとかたづけられている。
16	こまっただときは、たんにんの先生にそうだんできる。
17	地いきやPTAの行事に進んでさんかしている。

子どもと共に育む京都市民憲章

わたたくしたちは、
 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
 1 子どもを喜び喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域をつなぐ力を広げます。
 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日(児童の日)制定
 3月13日(京都市会が憲章推進を決議)



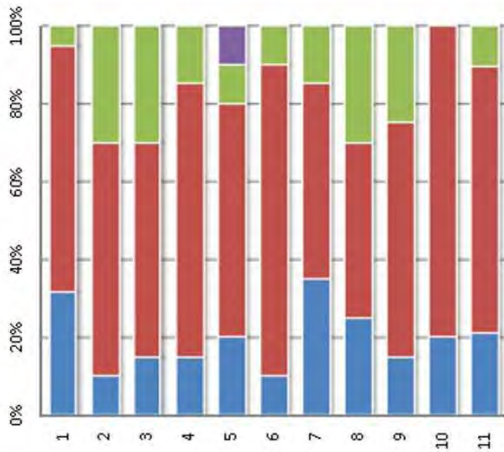
○「進んで学習に取り組んでいる」は、7月に実施したアンケートの結果とほぼ変わらず、約83%の児童が「あてはまる」と回答しています。「宿題以外の学習に取り組んでいる」は、7月のアンケートのときは29%の児童が「あてはまらない」と答えていたのですが、今回は25%の回答にとどまりました。また、「あてはまる」と答えた児童は約50%あり、前回より7%増えています。全校でわずかな伸びですが、「パワーアップノート」に自主的に学習できる力を伸ばせるように取り組んでいきます。

○「自分やみんなのものを大切にしている」は、80%の児童が、「あてはまる」と答えています。20%の児童がそうではないと答えており、前回よりものを大切にしないという回答がわずかに増えているのが気になる所です。冬になり上着や手袋の着し物が増え、名前のないものが職員室の廊下で引き取り手を待っている状態が続いているので、各家庭に記名の呼びかけをしていきたいと思います。ものを大切にすることを育てることは、人や友だちをも大切にすることを促します。

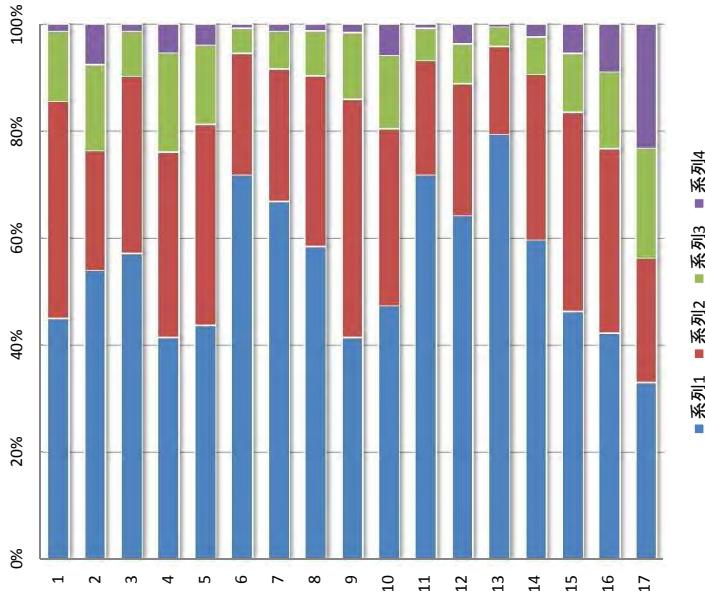
○「担任の先生ははじめのない学級を作ろうとしている」は、前回に続いて、95%を超える児童が「あてはまる」と答えており、学級で一人一人を大切にすることを児童にも理解でき、信頼も得ていることが分かります。安心して通えるクラスづくり、学校づくりを続けていきたいです。

○「授業が分かりやすい」との回答も前回と同じく90%以上の児童が「あてはまる」と答えており、来年度も「どの子どもも分かる授業づくり～授業のユニバーサルデザイン化～」について研究を深め、取り組んでいきます。

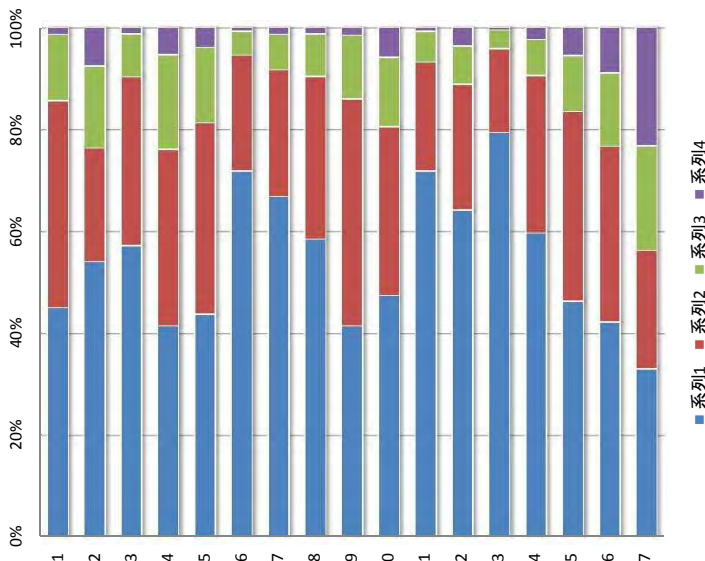
教職員(1~11)



高学年



低学年



1 よくあてはまる

2 少しあてはまる

3 あまりあてはまらない

4 まったくあてはまらない

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立椋原小学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 「確かな学力」の育成に向けて(主体的な学習態度) 2. 「豊かな心」の育成に向けて(クラス・全校での協働活動) 3. 「健やかな体」の育成に向けて(基本的な生活習慣の確立, 体力の向上)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定		自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	自己評価	学校関係者評価
1	主体的に考え、伝え合う能力の育成 読書の習慣化	年11回(若年研究含む)授業研究会・学級会など話し合い活動の活発化 100冊読書のすすめ 図書サポーター「木いちごの会」の読み聞かせや図書の整理等の読み聞かせや図書活動の推進	アンケート「進んで学習に取り組んでいる」「自分の考えをしっかりと話している」 全国学力学習状況調査の質問紙調査より「学校の授業以外に書読1日当たりどのぐらいの読書を読みますか」 学校アンケート「進んで学習している」「家で宿題以外の学習に取り組んでいる」	75%が、「自分の考えをしっかりと話している」と答えている。 86.8%が、「毎日読書習慣があり、6%が30分～1時間くらい読んでいる」。 85%が進んで学習に取り組んでいる。(少しも含めると)	・自主的に学習することがどれだけ大切か学年に合わせて指導を入れてはどうか。 ・宿題以外の学習でどんなことをすればいいか教える機会を増やしてはどうか。 ・本を読む子が多いのは素晴らしいことだ。学習の基本だ。
2	豊かな心(あいさつ・ボランティア)	朝の校門での登校指導、年に1度か学校清掃や草抜きなどボランティアを呼びかける。 各クラスで「キラリつけ」を成果を提示する。ピアサポート(兄弟学年の取組) 人権問題に対する認識を育てる教育(各教科・参観授業・保護者への啓発)	アンケート「すすんで学校アンケート」を挨拶している」 学校アンケート「思いやりを持ち、友だちと仲良く過ごしている」 学校アンケート「先生ははじめのない学級をつくろうとしている」	「あいさつをすすんでしている」と少し当てはまる」で74% 「友達と仲良く過ごしている」と少し当てはまる」で85% 93%の児童が「あてはまる」と回答。	・「木いちごの会」の活動を続けていきたい。 ・学校運営協議会の「図書活動部会」でもサポートを続ける。
3	基本的な生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 休み時間のクラス遊びの充実 部活動の充実	アンケート「早起・早寝・朝ごはんの習慣が付きしている」 ・ロング休み(毎週水曜日実施) ・4種目のスポーツ部活	「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて80%。 体力診断テスト(5年生)・部活動の大会参加等	・朝のの様子を見ているとよく褒められている児童がいる。 ・部活や学校の取組、地域のクラブなどが多くあり、いろいろな種目を選択できる理由はありがた学校である。 ・大文字駅伝もよく頑張ってもらっている。
4	小中一貫教育の推進 若年教員研修 情報発信の充実	中学校区3校の連携 小中連携 若年教員への研修会を実施 積極的なホームページの更新	アンケート「進んで参加・中学生チャレンジ体験2校での学年主任会・6年担任」 支部10ヶ校で年に2回授業研究。校内授業研一人1回以上。支部単位でも実施。 学校ホームページのアクセス数	小中一貫教育を今後も3校で相談しながら続けていく。中学校への不安を解消するために、現段階で部活の交流は、続けていきたい。	・「朝の朝の中学生のチャレンジ体験や部活動など今まで通り交流を深めてほしい」 ・「下校で中学生もよく挨拶してくれる。同じように見守ってほしい」 ・「ホームページや学校便りでは、楽しい学校の様子がよくわかり頑張ってもらっていると思う」

平成26年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定		自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	自己評価
1	確かな学力	年11回(若年研究会含む)授業研究会・学級会など話し合い活動の活性化 「パワーアップスタディ」と名付けて2年～6年でノートをもって取り組んでいる。 朝の校門での登校指導、年に何度が学校清掃や草抜きなどボランティアを呼びかける。 各クラスで「キラリ見つけかけ」をし、成果を掲示する。ピサアポルト(兄弟学年の取組)入権問題に対する認識を育てる教育(各教科・参観授業・保護者への啓発)	アンケート項目「進んで学習に取り組んでいる」「自分の考えをしっかりと語っている」 学校アンケート「進んで学習している」「家で宿題以外でよくしている」は55%、「しる」も入ると75% 「あいさつをすすんでしている」という回答が45%で、「少し当てはまる」が30% 「友達と仲良く過ごしている」という回答が63%、「少しあてはまる」が、30% 93%の児童が「あてはまる」と回答。	「進んで学習に取り組んでいる」児童は83%であり、少しの児童の原簿数になる。自主勉強のノートをクラスで紹介しているが、全校の児童に紹介しているのは、約50名の児童の学習の様子を自分の目標にできればよいので、と学力向上委員会で話し合う。 「よいあいさつの仕方を5項目ほどあげ、具体的にどんなあいさつをすればいいか指標を作る。朝会で紹介する。 「友だちを大切にしている気持ち、人権学習の基礎として、「なかよしの日」にCSSの取組を全校で行っている。	学校関係者評価による改善に向けた支援策 ・昔遊びやお米学習など地域で協力できるところは協力していく。 ・これまでと変わらず、朝や下校の見守りの時のあいさつを続けていく。
2	豊かな心	朝の校門での登校指導、年に何度が学校清掃や草抜きなどボランティアを呼びかける。 各クラスで「キラリ見つけかけ」をし、成果を掲示する。ピサアポルト(兄弟学年の取組)入権問題に対する認識を育てる教育(各教科・参観授業・保護者への啓発)	アンケート項目「自分からあいさつをしている」 学校アンケート「友だちにやさしく、仲良く遊んでいる」 学校アンケート「先生は素晴らしいと思えるし、始めのめいめいクラスをつくらうとしている」	「よいあいさつの仕方を5項目ほどあげ、具体的にどんなあいさつをすればいいか指標を作る。朝会で紹介する。 「友だちを大切にしている気持ち、人権学習の基礎として、「なかよしの日」にCSSの取組を全校で行っている。	・前回と比べてよくなっているところは、先生方の教育のおかげだ。続けて頑張っていきたい。 ・前回と比べてよくなっているところは、先生方の教育のおかげだ。続けて頑張っていきたい。 ・あいさつができる子、できない子と性格があるのが、それほど気にしないので、児童館に行くときとみな挨拶してくれる。
3	健全な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 休み時間のクラス遊びの充実 部活動の充実	アンケート項目「早寝・早起き・朝ごはんの習慣が付いている」 ・ロング屋休み(毎週水曜日実施) ・4種類のスポーツ部活動	・早寝早起きの習慣がついていると答えた児童は増えたが、保護者アンケートでは、前回は少し下回った。児童は習慣化してきたと思っているが、この冬の時期には起きにくい傾向があったのだから。 ・小中一貫教育の取組により、教師陣は中学校・小学校2校の連携が進んできた。 ・学校行事への関心も高く、毎日のHPのアクセス数が安定してきた。	・大文字駆伝で、連続上位の成績を取められ、熱心な先生方に指導していただき、指導していただきたい。 ・家庭でのしつけは心にも大変大事だ。 ・様々なスポーツ地域で指導していただきたい。 ・今まで通り、土曜日や夏休みの取組を支援していく。(エンジョイ楳原・スポーツ大会など)
4	独自の取組	中学校区3校の連携 小中連携 若年教員研修の実施 積極的なホームページの更新	「地域行事に進んで参加している」を合わせて75% 参加した若年教員に好評 毎日平均100回のアクセス数	・HPからも保護者の学校への関心が高いことが分かる。今後も続けていきたい。 ・若年研修は学級経営力・指導力を付けるために今後も大切にしていきたいが、どんなことが必要なのか見極め、研修内容を計画していく必要がある。	・学校運営協議会として、学校や子ども達、地域のために大きな目標に取り組みしていく指標のようなものを作ってはどうかと思う。

4

総括・次年度の課題

・確かな学力の定着は、6年生の全国学力テストも満足できる結果であり、学校運営協議会からも評価を頂いている。しかし、ジョイントプログラムの結果が学年により偏りがあり、課題を残すことになった。授業のユニバーサルデザイン化や自主勉強(パワーアップノート)を工夫して進めていく。
・学校運営協議会の方々に学校の取組を理解していただき、協力もしていただければ、今後の行事(オリエンテーリングなど)も計画していく。
・小中一貫教育を3校で進め、お互いの取組に対する理解のためにも授業公開などの取組を続け、合同の行事(オリエンテーリングなど)も計画していく。

3

学校名(京都市立楳原小学校)

評価日	評価者(いづれかに○)	学校関係者評価
平成27年1月9日	評価委員会	平成27年2月23日 学校運営協議会 学校評議員

学校評価のねらい

学校教育目標の実現に向けて、自己評価・外部評価を通して施設一体型小中一貫教育校としての本学園の教育活動を振り返り、より一層の充実と改善を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	教育指導計画書の作成		
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討	凌風学園運営協議会 第1回理事会開催 学校教育方針の説明	
	6			
	7		凌風学園運営協議会 第2回理事会開催 第1回総会開催 学校評価項目の検討	
	8			
	9	保護者アンケート 児童生徒アンケート 自己評価 の実施		
	10	評価結果の分析 今後の方針の検討 研究報告会参加者アンケート	凌風学園運営協議会 第3回理事会開催 学校関係者評価	
	11			学校だより、HPで結果・ 改善策を公表
	12			
	1	保護者アンケート 児童生徒アンケート 自己評価 の実施		
	2	評価結果の分析 改善策の検討	凌風学園運営協議会 第4回理事会開催 第2回総会開催 学校関係者評価	
	3	次年度の方針の共通理解		学校だより、HPで結果・ 改善策を公表

平成 26 年度学園運営の基本方針

凌 風 学 園
学園長 手塚 仁

学園教育目標

自らを高め 共に生き 希望を抱いて 未来を拓く

めざす子ども像

- 知的好奇心を持ち、素晴らしいものに素直に感動できる、豊かな感性をもつ子
- 向上心を持ち、「わかる」「できる」を次につなげようとする子
- 自分を大切にし、他の人のよさや違いを認め、共に生きる子
- 将来の自分を想い、夢を持ち、その実現に向け、ひたむきに努力する子

重点指導方針

- 学びの作法の習得
一高い志を実現する自律的な学習と互いに高め合う学習集団の育成
自らを高める学習の目的の設定方法、学習方法の獲得、授業規律の確立を行う。
- 言語活動の充実
一ことばで考え、表現し、伝える個と集団の育成
語彙を増やす読書活動の場面、考えをまとめる文章表現の場面、意見を述べる場面の設定を行い、思考力・判断力・表現力の伸張を図る。
- キャリア形成支援
一自らを社会の一員としてとらえ、積極的に参画する個と集団の育成
卒業までに一定の社会性を身につけ、生涯にわたって学習し続ける基礎の確立を図る。

具体的方策

学習指導

- ・教科授業や学級活動などの中で、自分の意見や考えをしっかりと書かせ、そして自分のことばで語り合わせる。
- ・教育活動の中で、教師が意図して図を書かせ、読み取らせ、互いに説明させる。
- ・学校図書館を、教科授業で活用する。
- ・授業の規律を、発達段階に応じて確立する。
- ・計画的に学習する方法を学ばせ、身につけさせる。
- ・学習確認プログラムやジョイントプログラムを徹底的に活用した学習指導を行う。

生徒指導

- ・共によりよく生きるために、道徳教育を充実させ、よりよい生活や人間関係を築く態度を育成する。
- ・発達段階に応じて、集団の一員としての自覚を持たせ、集団として高める指導を行う。
- ・学園生の実態に応じた徹底した配慮とゼロトレランスによる指導を行う。
- ・学園生の生活全般にわたって、学年やステージ、学園全体でのチームによる指導を行う。

ステージ制の指導

第1ステージ

- ・語彙を増やし、身の回りのことを、ことばで理解する力を育成する。

第2ステージ

- ・他者のことばをしっかりと聞き、自分のことばで考え、伝える力を育成する。

第3ステージ

- ・高い志を、自分のことばで話し、実現していく力の基礎を培う。

学園の経営方針

－「チーム凌風」としてのシステムの確立を図る

- ① めざす子ども像及び学園教育目標を全教職員が共通認識し、一貫した指導計画のもと、子どもの9年間の学びと育ちをつなぎ、心身の発達・発育の状況に適応した質の高い指導を行う。
- ② これまでの実践で培ってきた専門性を全体で共有・活用し、教職員相互に学びあいながら、校種を超えた新しい学校文化を創造する。
- ③ たえず教育効果の検証・改善に努めるとともに、京都市の小中一貫教育の先進モデル校として積極的に研究開発に取り組み、自校、さらには京都市教育の一層の充実・発展に寄与する。
- ④ 学園関係者の自校教育への理解・信頼を高め、共に子どもを育むための活動への協力・支援を得て教育の充実・発展を図るため、学園情報の積極的公開や学校評価の取組を一層推進する。
- ⑤ 家庭・関係教育機関とも連携し、就学前後の教育の充実に努める。
- ⑥ 校務支援システムによる、校務の効率化を図る。
- ⑦ 危機管理マニュアルを周知徹底し、防災教育・防災管理の充実に努める。

凌風小中学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 学校の教育活動を外部からの異なる視点で見直すことにより、今後の取組の改善に活かす。
- 自己の教育活動を振り返り、課題を明らかにし、以後の教育活動につなぐ。

2 重点評価項目

- 確かな学力の育成（基礎基本の定着、豊かなコミュニケーション能力の育成）
- 豊かな心の育成（豊かな体験活動の実践、規範意識の向上）
- 健やかな体の育成（基本的生活習慣の確立、食育の推進）

3 評価手法

教職員・保護者・児童生徒に対するアンケート調査を実施した。アンケート結果の他、全国学力・学習状況調査、プレジョイントプログラム、ジョイントプログラム、学習確認プログラムの一連の結果や質問項目の内容、日々の授業の様子や児童生徒会活動及び部活動等における状況、PTAをはじめとした保護者・地域からの意見等についても評価の判断材料として分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、アンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の向上について

児童生徒に対するアンケートの結果によると、「毎日、学校に行くのが楽しい」「きちんとあいさつをしている」については80%を超える児童生徒が「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答であった。なおかつ、前期に比べ後期の方が肯定的な回答が増加していた。また、「学校や社会のきまりをしっかりと守っている」という項目については、90%を超える児童生徒が肯定的な回答をしている。これらの結果から、ルールやマナーについての指導を、機を逸することなく、学校全体として歩調を揃えて徹底してきたことにより、児童生徒の規範意識の向上はもとより、学校生活の安定や安心感につながっていることがうかがえる。

また、保護者に対するアンケートの結果からも、「子どもは楽しく学校に通っている」「子どもは学校で友だちと仲良く過ごしている」「子どもは学校や社会のきまりをしっかりと守っている」という項目について、90%を超える保護者が肯定的な回答を示しており、なおかつ、後期は前期よりも肯定的な回答が増加している。先の児童生徒に対するアンケートの結果と併せて考えると、やはり規範意識の向上に対する日々の地道な取組が児童生徒の姿に表れ、落ち着いた学校生活を送れていることに対する評価がなされているとともに、児童生徒のみならず保護者にとっての安心感にもつながっているとらえることができる。

これらのことより、教職員の綿密な連携のもとに進めている本校の施設一体型小中一貫教育のあり方、さらに言うならば小学校と中学校のこれまでの考え方の融合及びそれらを土台としての創造的な取組の成果が実を結びつつあると考えている。

(2) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

学習意欲を高める授業づくりという観点においては、教職員に対するアンケートの結果では、「わかりやすい授業を提供できるように日々努力している」という項目については全員が肯定的な回答をしている。しかし、保護者に対するアンケートの結果によると、「子どもは日々の授業をよく理解している」という項目について肯定的な回答は80%強、児童生徒に関しては「毎日の授業がよくわかる」という項目についての肯定的な回答は85%程度であった。つまり、教職員としてはよりよい授業の提供に努力しているものの、結果として全ての児童生徒に対する「理解しやすい授業」にはなり得ていないことがうかがえる。

ただ、児童生徒の肯定的な回答は、前期に比べ後期については増加していることから、教職員の努力が徐々に結果に結び付いているともとらえられる。実際に、ジョイントプログラムや学習確認プログラムにおいて全市平均を上回る結果となっており、「学ぶこと」に対する児童生徒の意欲的で積極的な姿勢をつくり上げられてきていると考えている。このように、自らの成長を実感できていることが、児童生徒の「毎日、学校に来るのが楽しい」や保護者の「子どもは楽しく学校に通っている」、「子どもは学校生活の中でよい意味で成長している」の肯定的な回答の高さに表れているのであろう。

次に家庭学習の充実という観点においては、児童生徒に対するアンケートの結果によると「家庭学習をしっかりしている」について肯定的な回答は80%を超えているのに対し、教職員の「子どもは家庭学習をしっかり行っている」については児童生徒ほど高くなく、保護者においては70%を切る結果であった。これは、大人の立場からすると子どもの家庭学習が十分でないという見方と、子どもの家庭学習を十分に把握できていない保護者の姿があるという見方とが考えられる。この、児童生徒と保護者との回答の格差から、家庭での教育に関わって、保護者から児童生徒への働きかけのあり方等について、学校からの情報発信等を効果的に活用しながら具体的な支援・関わりを進めていくことが必要であると考えている。

5 自己評価

学校評価実施報告書（62，63ページ）を参照

6 学校関係者評価

本校では、自己評価の結果を踏まえ、学校運営協議会において学校関係者評価を実施している。

学校関係者評価では、教職員の努力に対して一定の評価をいただくとともに、児童生徒の全体的な姿としては落ち着いている様子が見受けられることに対しても成果とらえていただくことができた。しかし、登下校の際の児童生徒のあいさつについては課題を感じているというご意見もいただいております。児童生徒への直接的な指導のみならず、あいさつをはじめとしたコミュニケーションをとることについての文化的な盛り上がりを構築していくためにも、学校・保護者・地域がそれぞれの立場で取り組めることを明確にして重点的に進めていく必要があると考えている。

また、これらを今後につなげていくためにも、学校運営協議会をひとつのきっかけとして、地域諸団体や保護者が学校の教育活動の目的を理解し、児童生徒の教育活動への

支援を進めていくという京都市の学校運営協議会の特色を活かすことが重要である。そして、地域の核としての役目を果たしてきた学校を起点として、横の関係だけでなく世代を超えての縦の関係も踏まえて、それぞれのつながりの中での互酬性を広げていくことを期待していただいている。

7 総括・次年度に向けた課題等

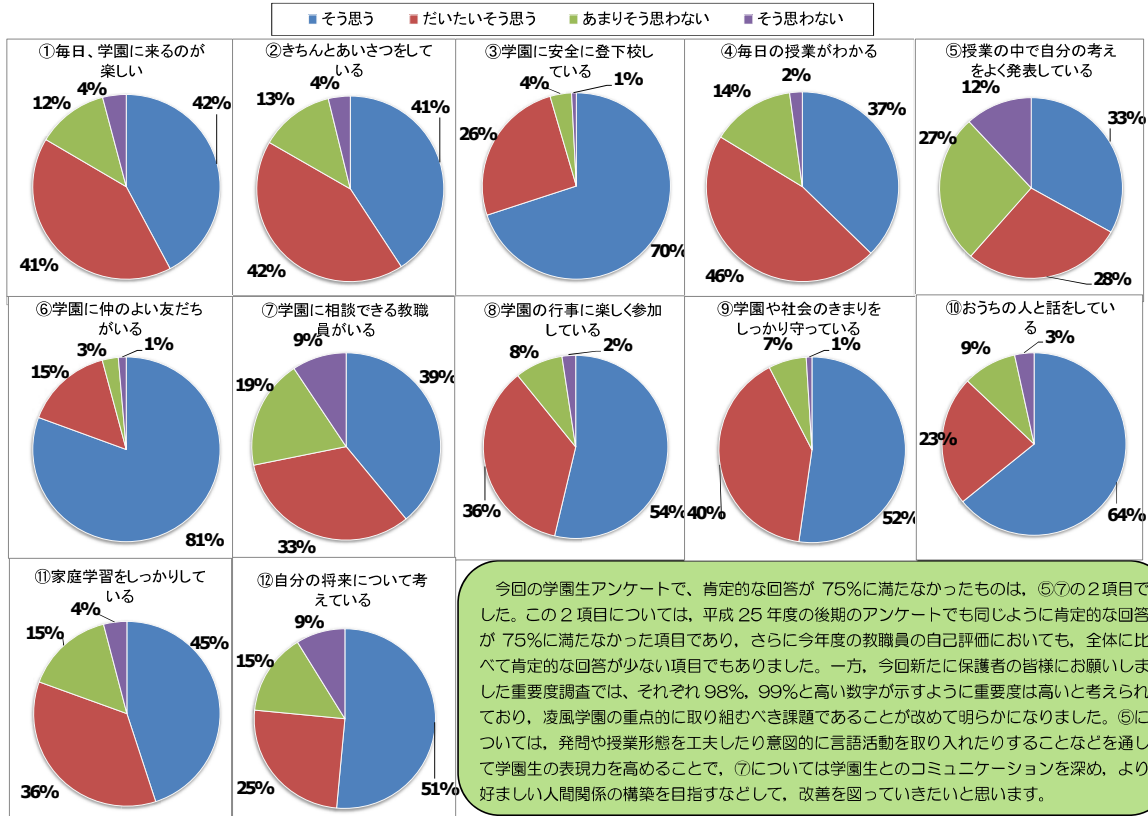
- 児童生徒や保護者等の客観的な評価を真摯に受け止めつつ、学校としての主体性をもった教育活動を進めていく。
- 日々の指導の積み重ねを大切にし、その中で児童生徒の成長した部分を明確にして児童生徒に実感をもたせるとともに、保護者や地域にも積極的に発信し、学校の教育活動に対する理解を深めていく。
- 施設一体型小中一貫教育校として、効果的で効率的な教育活動の構築にあたる。
- 児童生徒自らが将来像を描き、その実現に向けて進んでいけるよう、学力の向上と規範意識の確立を柱として常に教育活動の振り返りを行い、よりよい取組につなげていく。

前期学園評価アンケート結果

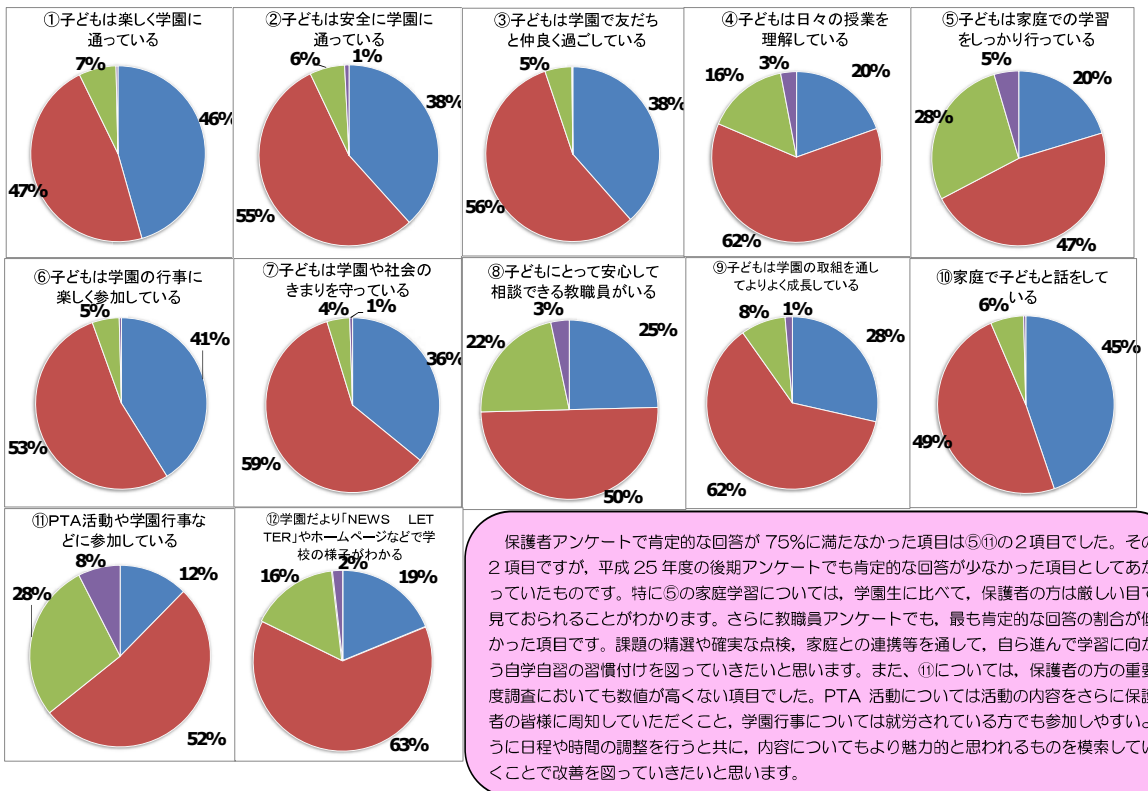
H26.9月実施

保護者の皆様には、ご多用にも関わらずアンケートにご協力いただきありがとうございました。今回、提出いただいたアンケート用紙は536枚で、回収率は72%になりました。結果としては、昨年度と同様、おおむね肯定的な回答が多かったのですが、いくつかの課題も見られました。アンケート結果や自由記述欄でいただいたご意見を踏まえて、さらなる本学園の教育活動の充実にあたっていきたいと思います。今後も引き続き、本学園の発展のためご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学園生



保護者





「今年度を振り返って、そして今後に期待すること」

早いもので、平成26年度も終わろうとしています。今年度を振り返ってみると、凌風学園の3年目も、学園生は今までも増して大きく成長してくれたように思います。

第1ステージの学園生は、4年生を中心に運動会や学習発表会などの行事で練習や学習の成果を見せてくれました。それは、4年生のリーダーシップが大いに発揮された場面でした。

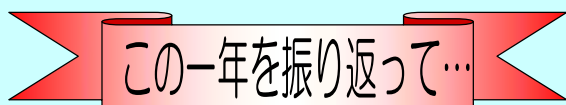
第2ステージの学園生は、7年生を見本とし、一人一人が自分の力を伸ばすために努力を積み重ねていったと思います。5年生ではできにくかったことが、6年生、7年生となるにつれてできて当たり前でなく、身につけてできるようになってきています。

第3ステージの学園生は、学園のリーダーとして下級生の手本となりました。さらに、部活動を含めた対外的な活動にその力を遺憾無く発揮して、下級生のあこがれになりました。特に、9年生はまもなく卒業です。卒業してからも学び続け、成長し続けていくことだと思います。

もちろん1年生から8年生も、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ、一人一人の学習にもその成果が現れてきています。今後も、自分が成長し続けられる進路を実現できるように、自らの力を伸ばして行って欲しいと思っています。

さて、学園も開校して3年が終わろうとしています。ようやく今月には、待望のグラウンドが完成します。凌風学園の整備計画は、このグラウンドの完成で完結します。今後は、施設全体の更なる有効な活用を行って参ります。そして、教職員は「チーム凌風」を合言葉に、一丸となって学園生の9年間の学びと育ちを支援していきます。今後とも、凌風学園の更なる発展のため、保護者や地域の皆様のご支援をお願いいたします。

学園長 手塚 仁



この一年を振り返って...

(各ステージマネージャーより)

第1ステージの学園生は、毎日の努力を惜しまず勉学に励み、友達と力を合わせ、いろいろな取組にもチャレンジし、たくさんの思い出を作りました。

特に「なわとび集会」の取組では、1年生から4年生までの学園生の結束の力が大きくなり、そこに学び合いが生まれました。今後の成長がますます楽しみにになりました。保護者の皆様には様々な面でご協力いただき、心より感謝申し上げます。

第1ステージマネージャー 野原 久美子

3月はこの一年を締めくくるだけでなく、新しい一年へ向けた大切な準備期間です。9年生にとっては、卒業から進路と人生の大きな節目を迎え、8年生は最上級生としての生活が始まります。いずれも、今年度以上にかかる責任が増し、周囲からの期待も高まります。

今年度、劇的な学習環境の変化にも順応し、学園のリーダーとしての役割を果たしてきた経験を糧に、次年度以降も自己の立場を正しく理解し、将来の自分ために努力を惜しまない生活を送りましょう。

第3ステージマネージャー 向段 新

4月から第2ステージの目標『挨拶・言葉遣い・ベル着を大切にす』の達成に向け、5年生で努力、6年生で達成、7年生で定着を合言葉に活動してきました。1年間でステージ全体・学年・学級など、それぞれの集団で成長があったことは言うまでもありませんが、今年1年間、皆が努力してきた本当の成果は次年度以降、新しい学年・新しい目標のもとで活動し始めたときに見えてくるでしょう。今後も、将来の自分に褒めてもらえるような生活を実践していきましょう。

第2ステージマネージャー 伊藤 晋治

回
覧

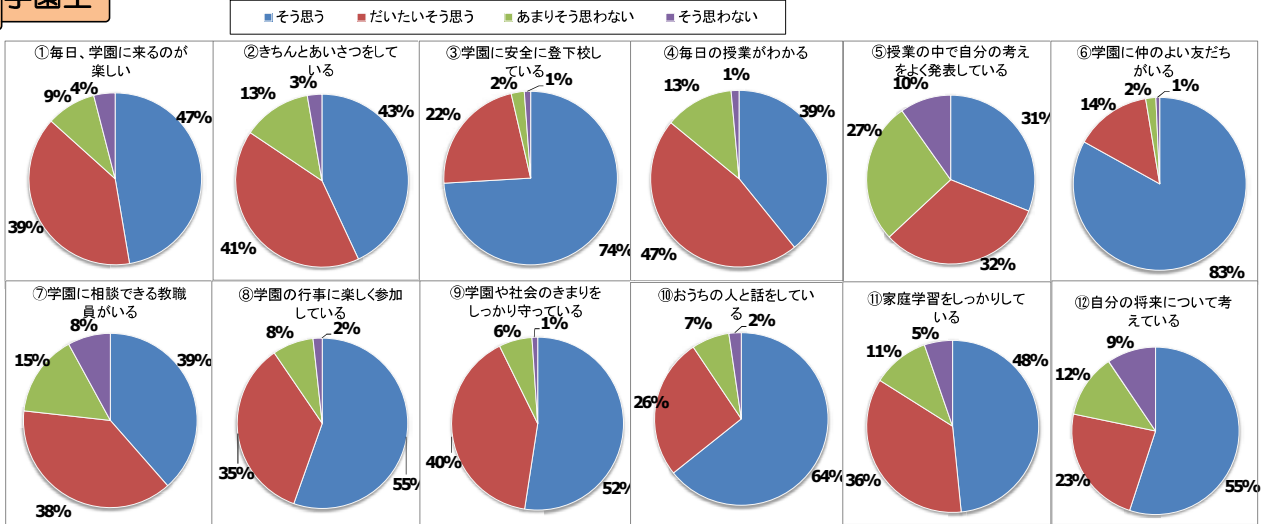
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

後期学園評価アンケート結果

H27.1 月実施

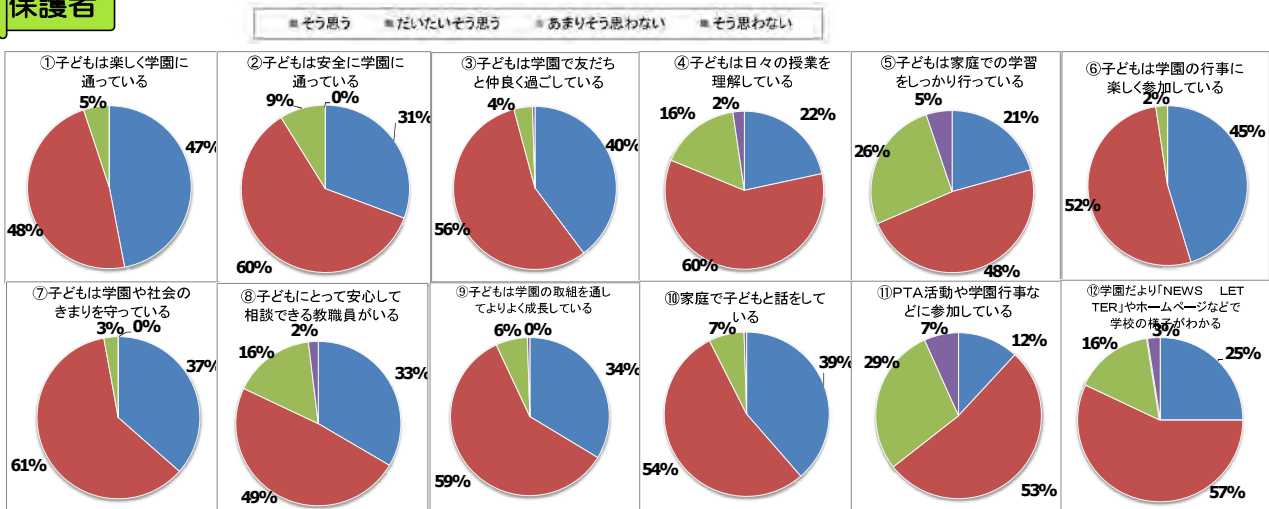
保護者の皆様には、ご多用の中、学園評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回、回収させていただいたアンケート用紙は546枚で、回収率は約73%でした。前期と同じ内容についてのアンケートを実施したなかで、前回同様、おおむね肯定的（そう思う、だいたいそう思う）な回答が多かったのですが、いくつか課題も明らかになりました。ここでは、学園生と保護者のアンケート結果についてお知らせします。

学園生



今回は今年度2回目のアンケートということで、後期の数値を前期のものと比較してみました。学園生のアンケートでは前期に比べてすべての項目において「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた肯定的な回答が増えていました。その中で目立ったのは⑦の「相談できる教職員がいる」という項目で、5ポイント上昇していました。一方、相対的に肯定的な回答が少なかった項目は63%だった⑤の項目でした。この「授業中の発表」に関しては、教職員のアンケートでも74.5%と最も低い項目となっていました。昨年度のご報告でも、肯定的な回答率が低い項目として取り上げていたものでもあり、喫緊の課題と認識する必要があります。今後、授業形態の見直しや発問の工夫などを通して、あらゆる場面で言語活動の充実を図り、学園生の表現力の向上を目指していきます。

保護者



適合度の前期との比較では全12項目中8項目で肯定的な回答が増え、その中で目立ったものは7.4%増えた⑧の「安心して相談できる教職員がいる」でした。逆に肯定的な回答が減った項目は4項目で、中でも1.7%減の②「安全に登下校」についてが最も目立ち、他は1%に満たないものでした。相対的に肯定的な回答が少なかった項目は64.4%の⑪「PTA活動や学園行事への参加」ですが、これについては重要度でも肯定的な回答が85.2%と全項目中で最も少ない項目でした。学園と家庭の連携があってこそ、お子達は健やかに成長します。学園教育への積極的なご参画をお願いいたします。一方、⑤の「家庭での学習」の項目でも肯定的な回答が68.5%と少なく、これは教職員アンケートでも低さが目立つ項目でした。これは昨年度からの課題でもあり、学園生のさらなる学力の向上のため、課題の精選や確かな点検、学習時間の明確な提示などを通して、継続して取り組んでいきたいと思っております。

※自由記述欄では、「登下校の安全」、「学園行事」「学園ホームページ」「部活動」についてなど、いろいろなお意見をいただきました。全てのご要望にお応えすることはできませんが、担当の方で検討し、可能な部分にはご意見を反映していきたいと思っております。

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立凌風小中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(基礎基本の定着, 豊かなコミュニケーション能力の育成)
2. 豊かな心の育成(豊かな体験活動の実践, 規範意識の向上)
3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 食育の推進)

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート実施結果, その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価	
					評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いづれかに○)
1 確かな学力	基礎基本の定着	確かな教材研究による授業改善 家庭学習の充実	各種テスト(アプロ・確プロ・全国学力・学習状況調査)の結果 「家庭学習をしっかりとっている」	アプロは7~9年にも至る全市平均を上回るが全国調査では、9年の国語人以外は全国、京都府平均に及ばなかった。保護者の肯定的回答は67% 学習者の肯定的回答は62%、教職員78%	平成26年10月9日	運営委員会	平成26年10月15日	学校関係者・学校評議員 学校運営協議会 学校評議員
	豊かなコミュニケーション能力の育成	教科・領域部会による教科の特色を活かした研究の推進 言語活動を取り入れた授業の実践	「授業の中で自分の考えを表現している」 学習者の話し合い態度の改善	学習者の肯定的回答は82%、教職員78%	⇒	⇒	⇒	⇒
	まなびの作法の習得	日々の学習規律の確立 互いに高めあう学習集団の育成	クラスマネジメント・ポイント 「子どもは学習の取組を通してよりよ成長している」	保護者の肯定的回答は90%、教職員も90%	⇒	⇒	⇒	⇒
	道徳教育の充実	道徳教育推進教師を中心とした定例的な道徳教育の推進 定期的な授業時教の点検	道徳教育全体計画の実施状況及び授業分析 「毎日、学習に来るのが楽しい」	道徳の授業は、おおむね計画通り進んでいる。学習者の肯定的回答は84% 1・2年生の七夕作りでは、着目しを期かせて取り組んでいた	⇒	⇒	⇒	⇒
2 豊かな心の	豊かな体験活動の実践	学園運営協議会の学習支援委員会を通してのゲストティーチャ어의活用 授業形態の工夫	学園運営協議会の実施状況及び活動分析 「学園や社会のきまりを守っている」 「きちんとあいさつをしている」	1・2年生の七夕作りでは、着目しを期かせて取り組んでいた 教職員の肯定的回答は85%、保護者・学習者は90%程度 学習者の肯定的回答は83%	⇒	⇒	⇒	⇒
	規範意識の向上	きまりごとの徹底した共通理解 児童生徒会を中心とした挨拶運動	「学園や社会のきまりを守っている」 「きちんとあいさつをしている」	22時まで継続している割合は40%程度(5年以上) 睡眠時間が十分に確保されていない 食の指導は計画的に実施している 朝食の摂取率は89%	⇒	⇒	⇒	⇒
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	担任による生活指導、家庭との連携 児童生徒会による朝食睡眠キャンペーン	毎日の健康観察 児童生徒会アンケートの分析 食の指導実施計画の実施状況 児童生徒会アンケートの分析	22時まで継続している割合は40%程度(5年以上) 睡眠時間が十分に確保されていない 食の指導は計画的に実施している 朝食の摂取率は89%	⇒	⇒	⇒	⇒
	食育の推進	栄養教諭による食育指導 児童生徒会による朝食睡眠キャンペーン	食の指導実施計画の実施状況 児童生徒会アンケートの分析	朝食の摂取率は89%	⇒	⇒	⇒	⇒
4 独自の取組	9年間の小中一貫教育の充実	9年間の連続した学びの場の充実 組織的な学園運営	「学校教育目標に照らして教育活動を進めている」 「自分の将来について考えている」	教職員の肯定的回答は92% 学習者の肯定的回答は77%	⇒	⇒	⇒	⇒
	キャリア形成支援	職業体験などのキャリア教育の取組 自己有用感の高揚 積極的なHPの更新 学級・学年だよりの発行	「学園だよりのホームページなどで、学園の様子がわかる」	保護者の肯定的回答は82%、重要度90% HPアクセス数 22499(10/24まで)	⇒	⇒	⇒	⇒

